全国路地サミット 2024in 伊豆下田

元祖開港都市下田

～下田に眠る資産を活かして再びの開港
閉じているものを開こう！～
全国路地のまち連絡協議会世話人会レポート

2025.01

全国路地のまち連絡協議会世話人会

はじめに

全国路地サミット 2024in 伊豆下田が令和 6 年 11 月 16 日～17 日にかけて開催された。

今回、下田市の要望で基調講演・基調報告はなく、会場を交えた意見交換を主体としたサミットとなった。スピーカーとしては、日本全国 250 箇所以上でイラストマップの制作を行っている高橋美江氏（高橋デザイン室主宰、絵地図師・散歩屋、グラフィックデザイナー）と、新潟で小路めぐりをはじめた野内隆裕氏（路地連新潟代表、ブラタモリ新潟編案内人）、地方都市などでリノベーションを行っている野田明宏氏（住まい・まちづくりデザインワークス、一級建築士、NPO 法人向島学会会員）のお三方に、話題提供と下田の特長などについてお話し頂き、地元からは市の景観まちづくり審議会作業部会委員である宝田麻理子氏と松木市長にご登壇いただいた。

高橋氏からは、まちの見方、イラストマップを制作する際の目の付け所などについてお話しいただき、続いて野内氏からは、小路めぐりの活動のご報告をいただくとともに、伊豆に多く残されている日和見山（菱垣廻船の天候観測や出入港観測施設）が貴重であり、是非日和見山のネットワークを形成したいとの提言を受けた。

こうしたお話しを受けて、下田の資産であり大切にすべきものについて、地元からのご意見やスピーカーの皆さんが見た下田の特長などについて意見交換を行った。

左から、松木正一郎下田市長、宝田麻理子氏、野田明宏氏、野内隆裕、高橋美江氏

続いて、野田氏より石巻における「COMICHI」プロジェクトや富山県高岡市でのリノベーションプロジェクトについてお話しいただき、下田の資産の生かし方について意見交換を行った。地元の方、学生さん、路地協会員など多様な方を交えての意見交換ができた。

懇親会は、下田市のワーケーション施設「WORK×ation Site 伊豆下田」で行われ、下田の若手寿司職人育成店舗「寿しらぼ三〇二」の若手職人によるケータリングで行われた。下田のまちづくりで中心的な方と路地協の会員とで、情報交換と人脈の形成が図られた。

会場（学生）との意見交換

懇親会

また、まち歩きは、16 日には「下田のまちづくり・・・、その先の物語（ガイド：安藤泰氏）」「町割り・古建築コース（ガイド：塩見寛氏）」「旧町内路地巡りコース（ガイド：木村晃郁）」の 3 コースが実施され、17 日には「海辺、温泉場の路地巡り見学（ガイド：小川弾氏・地元の方）」が行われた。

蓮台寺コース

まちづくりコース

町割り・古建築コース

路地協コース

須崎コース

本報告書は、全国路地のまち連絡協議会世話人が、シンポジウムへの参加や下田のまちを歩いて感じたことを単純にまとめたものである。多少認識の違いや独善的な内容もあるかとは思うが、その点はご理解をいただいて今後のまちづくりの一助になれば幸いである。

下田開港170周年記念

参加費 無料

令和6年度 全国 路地サミット in 伊豆下田

元祖開港都市下田～下田に眠る資産を活かして再びの開港…閉じていたものを開こう！～

「伊豆はあたたかく 野宿によろしい 波音も」種田山頭火

令和6年 11月16日㊏・17日㊐

1日目 11月16日㊏ 第1部 13:00-14:30 下田まち歩き（集合：東本郷庁舎駐車場）
第2部 15:00-17:00 トークセッション
会場：道の駅開国下田みなと第3会議室
トークテーマ：「下田の路地・資産を活かしたまちづくり」
道の駅会場に「下田まち遺産」と風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」を展示

2日目 11月17日㊐ 第3部 9:00-12:00 海辺、温泉場の路地巡り（集合：東本郷庁舎駐車場）

同時開催

あなたの好きな「with 路地」フォトコンテスト開催

下田市内の、海と路地、花木と路地、動物と路地など、"あなたの好きな路地"が入った、お気に入りの場所を写真でお送りください。
選ばれた作品は、会場に展示、表彰（粗品贈呈）されます。

主催 全国路地サミットin伊豆下田実行委員会（事務局：下田市役所企画課）
共催 全国路地のまち連絡協議会（路地協） 後援 下田市
問い合わせ 下田市企画課 TEL 0558-22-2212

下田開港170周年記念

令和6年度

全国 路地サミット in 伊豆下田

1日目 令和6年11月16日(土)

第1部　下田まち歩き

12:50　下田市役所東本郷庁舎駐車場 集合(まち歩きスタート地点)

13:00　**まち歩きスタート**

東本郷庁舎駐車場→まちあるき→道の駅開国下田みなと(90分)

下田のまちづくり…、その先の物語	**安藤 泰** 氏 一級建築士事務所 主宰 下田市景観まちづくり審議会会長	40年前ペリーロードから始まった私たちの「まちづくり」…「海に臨む終着の地-下田」の、その先の物語を語りながら歩きます。	15名
町割り・古建築コース	**塩見 寛** 氏 静岡県ヘリテージセンター長 しずおか民家活用推進協会副理事長	旧町内の歴史やまちの構造、街路・路地と建築の関係、歴史的建造物のあれこれをポイント絞ってお話し歩きます。	15名
旧町内路地巡りコース	**木村 晃郁** 氏 路地協事務局長 街なか研究会幹事	無謀にも東京在住者が案内する下田の路地めぐり、その結末やいかに!?ちょっと急ぎ足、健脚向き3.5Km	15名

第2部　トークセッション(会場:道の駅開国下田みなと第3会議室)

14:00 受付開始

15:00 開会　下田市ガイダンス(下田市長)

全国路地のまち連絡協議会の紹介(事務局長 木村晃郁氏)

クロストークテーマ「下田の路地・資産を活かしたまちづくり」

16:50 次回路地サミット開催地案内(東京都八王子市)

17:00 閉会

道の駅会場展示

①下田まち遺産

②風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」

panelist　パネリスト

高橋 美江

高橋デザイン室主宰

- 絵地図師・散歩屋
- NHKカルチャー講座でまち歩き講座講師
- 全国250ヶ所以上で絵地図を制作

野内 隆裕

路地連新潟会長

- 新潟市まち歩き案内人
- 路地連新潟　代表
- 日和山五合目　館長
- ブラタモリ新潟　案内人

野田 明宏

住まい・まちづくりデザインワークス
一級建築士事務所

- 一級建築士、ヘリテージマネージャー、防災士
- 地域の資産を継承した建築や、東日本大震災など被災地の復興にも取り組む

宝田 麻理子

下田市景観まちづくり審議会
作業部会委員

- 下田市景観まちづくり審議会作業部会委員
- 横浜国立大学大学院工学府建築コース修士課程前期修了
- 下田写真部メンバー

松木 正一郎

下田市長

- 静岡県庁で景観まちづくり課長、下田土木事務所長、賀茂地域副局長兼賀茂危機管理監などを歴任
- 2018年全国路地サミットin伊豆松崎でパネリスト

2日目 令和6年11月17日(日)

第3部　海辺、温泉場の路地巡り見学(定員:25名)

9:00 下田市役所東本郷庁舎駐車場 集合

マイクロバスにて、下田市内の須崎、蓮台寺を見学

12:00 東本郷庁舎着

案内人(須崎)

駒沢女子大学 人間総合学群 住空間デザイン学類

小川 弾 准教授

日本大学理工学部建築学科山中新太郎教授「静岡県下田市須崎地区の街路構造と居住者意識-斜面地における高齢者居住に関する研究その1-」(研究協力)をご紹介しながら案内します。

お申し込み方法

もくじ

１．今井晴彦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．伊藤雅彦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

３．高尾利文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

４．堀田紘之　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

５．三橋重昭　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７

６．吉永哲司　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

７．木村晃郁（下田の路地）　・・・・・・・・・・・・　１３

８．木村晃郁（下田のまちに思うこと）　・・・・・・・　４４

関連配布資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４９

編集後記

下田路地サミット参加の感想

今井　晴彦

下田の中心地は、江戸以来コンパクトに出来上がり、東京人間からすると歩いて全て用が足せるサイズに出来上がっている。江戸の街なら当然のことではあるが。また巨大敷地が社寺などを除くとあまりなく、小さい単位の庶民住宅や商店などで構成されているため、街をあるいていても様々な変化があり、気分良く歩ける。

ただ本格的に歩ける街にするとなると、歩道空間の整備だけでなく、ベンチなどの休めるところやトイレなど支援するサービスの充実も欲しいところだ。なお自転車や電動キックボードには丁度合った町のサイズなので、駅で観光用の自転車等のレンタルサービスがあると良いと思った。

このような街が漁師町という特性と歴史の街という特性と両方がかぶさって、独特の雰囲気が広がっている。

やはりペリーロードの景観は１級

ただ歩いて楽しめる歴史のまち、居心地の良い生活のまちとしてさらに充実するには、先ほどの歩行者向けのサービスであったり、歴史がわかる案内板があったり、工夫が必要なように思える。歴まち事業の対象ともなっているので、一定のハード水準を達成しているとすると、地域の居住者がサービスを提供したり、街並みに気を付けたりと、行政だけでなく地域コミュニティの取り組みの充実を図っていくことも重要ではないだろうか。

吉田松陰寄寓の民家前

なお会津若松市の商店街では、３つの「どーぞ」というサービスを昔からやっていて、トイレ、ベンチ、荷物預かりなどを各商店がやっている。また今から２０年ほど前に解散したが、都市観光を創る会というのをやっていた。そこで観光の専門的知識を持つ会員に魅力ある都市とはなんだろうかとアンケートを行った。その結果、3 位が歴史、2 位が食文化、1 位が街並みという結果となった。この３つはその他を圧倒して支持されていて、ほぼ同じ重要度であった。

この３つで下田を見ると全てそろっていて、観光的な魅力の素質があることになるので、あとは磨けば磨くほどよく、その中で路地を活用するという視点を加えていただければ良いかと思う。

須崎の斜面路地も面白い

路地サミット下田に参加して

伊藤　雅彦

まちを歩くといつもいろいろな発見がある。駅から徒歩で移動できるペリーロードまでの旧市街地に、遅い時間まで賑やかな生花店や朝早くから常連客があつまる和菓子、パン屋さんなどを見つける。一方、観光客がたむろしそうな飲食店は予想外に少なかった。都市部と比較するのはおかしいが旧市街地で朝食はもちろん、コーヒーを飲む店をあまり発見できなかった。

早朝散歩するとこの旧市街地を散策する人が一定数いて、歴史と文化にあふれる下田を回遊する人が一定数いるのに気づく。個人的にはあくまで旧来からの電車移動を重視し、従って独特の雰囲気を持つターミナル駅の街、に興味を抱く。東京でも新宿、東京、上野などはターミナル駅でもあり普段あまりに複雑かつ巨大で気づかないがそこに根付いている独自の文化特性がある。過日弘南鉄道中央弘前駅、津軽線三厩駅そして三陸鉄道久慈駅などターミナル駅を見るために東北を巡った。大湊駅には行けなかったのが悔やまれる。

ふと、自分自身が大垣で生まれ、子供の頃終点だから安心と東京駅から夜行で終点大垣まで行った体験があるため、何かターミナル駅にノスタルジーを求めているのが根底にあるのかもしれない。

最近旧市街地でのリノベーション事業もすすみ新しい店舗も増えてきたのはたいへん喜ばしい。私の知人も二拠点居住をめざしリノベーションをすすめ、普段は旧市街地の賃貸を借りながらじっくり再生に取り組んでいると聞く。

路地サミットは事務局の手際のよい手配で充実した内容でした。事務局の皆さんありがとうございます。路地サミット運営のプロトコルが少しできたように思いました。ぜひ、この発見的手法を継続し、参加者を含めたファンが増え、文化と歴史ある自然豊かな下田に繰り返し集まる機会が生まれたらと祈念いたします。

下田市を訪ねて

高尾　利文

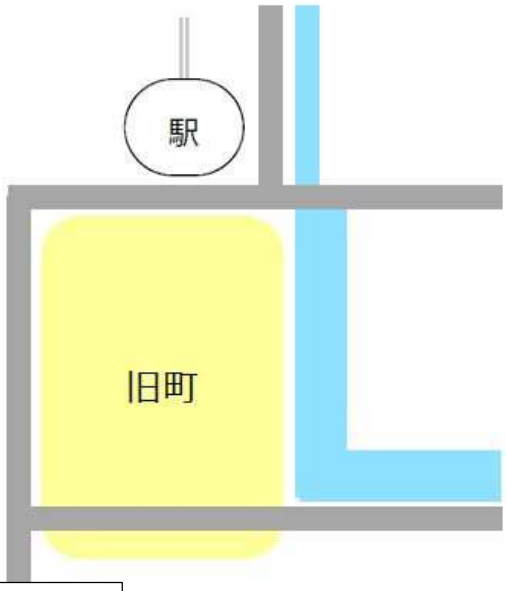
〈旧町〉

旧町はいたって平坦で空を広く望むことができ、極めてウォーカブルでした。

潮風と生活臭が大なるまちなかには、あっちこっちに魅力施設が見え隠れしており、コンビニより喫茶店が多いことに驚かされました。

平坦であるという素地を活かし、観光バリアフリーに力をいれたらどうかと思いました。ここでは「視覚障害者歩行支援」について提案します。

視覚障害者誘導用ブロックが基本ですが、これ以外に新しい技術が開発されています。



▶shikAI（シカイ）
▶コード化点字ブロック
▶薄型ソーラーパワー型ビーコン内蔵点字ブロック
▶ナビレンス（Navi Lens）
▶スマートフォンを活用した歩行者等支援情報通信システム

このうちナビレンスは、スペイン発祥の視覚障害者自立支援システムで、スマートフォンアプリから高密度な人工マーカーを遠距離から読み取るシステムになっており、このシステムで使用するタグは、遠くからフォーカスやフレーム設定を必要とせず、かつ歩行中でも迅速に読み取ることができるよう設計されています。

ポイントは、視覚障害者をはじめ移動中のすべての人がスマートフォンのカメラをタグに向けるだけで、タグ設置者が提供しようとする情報を素早く読み取ることができるところにあります。

県内では長泉町の「クレマチスの丘」に設置されています。

出典：ＮＰＯ法人アイ・コラボレーション神戸、篠原電機株式会社、株式会社アクセスムーブコンフォート

東京共済病院敷地内

これを旧町のかどかどに

〈須崎〉

強烈な斜面の住宅地は、令和 4 年 11 月に開催された全国路地サミット 2022in 長崎を思い起こされました。

この長崎の斜面住宅地は、戦後、都市整備で斜面地に追いやられたものですが、バリアフリー対応されており、参考になればと思い 3 点紹介します。

１．階段上の路地には

・白線が施してありました。また、ごみ箱はキャスター付きでした。

階段上の路地（白線付き）

ごみステーション（キャスター付き）

２．市営の住宅エレベーターは一般利用が可

- 「市営十善寺地区コミュニティ住宅」のエレベーターは、一般利用ができ、上の階の横道に出られます。
- 斜面市街地再生事業によるものらしく、そのなかに若年世帯向け住宅の供給と生活道路網の形成がありました。

コミュニティ住宅の１階レベル
（エレベーターは一般利用可）

コミュニティ住宅の３階レベル
（3 階から橋で道路へ）

３．市のその他の事業

- 車みち整備事業、木造老朽建築物の建て替え事業、老朽危険空き家対策事業があるとのことです。以下は車みち整備事業の要件です。

▶既成市街地内の斜面地にある市道（里道で道路幅員 2.5m 以上（一部 2.0m まで）確保され、市道として認定することができるものを含む）であること。
▶整備後の道路を利用する家屋（生活実態のある家屋）が 5 戸以上あること。
▶整備後の縦断勾配が 25%以下であること。ただし、平均縦断勾配としては 20 パーセント以下であることが望ましい。
▶用地提供等を含めた事業協力について、地元自治会や地権者の同意が得られること。

下田のまちなか

堀田　紘之

下田の旧市街地はほぼ１ｋｍ×500mの範囲に纏まっていて、歩き回るのに程よい広さといえよう。この中に歴史的スポットや飲食店が散在しており、街歩きをする観光客には有難いしつらえとなっている。

歴史的スポットでは、唐人お吉さんはともかく、ペリイや吉田松陰は日本人なら誰でも知っている歴史的人物であり、吉田松陰が萩で蟄居されていたのは知っていたが、その前に下田で踏海企ての罪で拘禁されていたのは知らなかった。また坂本龍馬も縁があったらしく、幕末好きにはたまらない地区であろう。

事前に頂いた資料「しもだっこマップ」では、この地区を対象としてテーマ別に 11 コースものまち歩き設定しており、この地区の面白さを表していて観光客の目につくようにしたら良いのではないかと思う。

ただ交通量が多いわけではないが、静かな地区で安心して歩いていて後ろから車が来るとひやりとする時が度々あった。地方都市ではどこでもそうであるように下田でも車利用が当たり前のようで、安心して歩ける工夫も必要だと感じられた。

観光で言えば海岸線の小さな入江に恵まれて、海水浴場が 10 か所もあるのには驚きである。気候変動で夏季が長くなりそうなので、増加する海水浴客をまちなかに誘導するような方策が求められるようになるかも知れない。

「全国路地サミット　２０２４in 伊豆下田レポート」

三橋　重昭

第１部　下田まち歩き

「下田のまちづくり・・その先のものがたり　案内人　安藤　泰氏」

下田は 50 年ぶり、前に来たのは会社のキャンプや海水浴。宿泊は黒船ホテルだったと思う。

安藤さんのガイドで、市役所から、下田駅、マイマイ通り、ペリーロード、下田公園、大川端通り、みなと橋通りを経てベイステージへ。

下田らしさを感じるところは多くはなかったが、安藤さんの長期ビジョンを聞きながら歩くとなるほどと思った。

下田駅を起点とする地域は、これから益々地域経済の中心を担う観光の拠点となっていかなければならないだろう。モデル都市としてヴェネチア・サンタクルーズを挙げられていたが同感。マイマイ通りは広い道路だが山側に 8 か所の寺院は見え隠れして了仙寺そしてペリーロードに。これからは観光を意識して整備、熟成していくことが期待される。そしてウォーターフロントへ。

今回は街なか周辺部を歩いたが、街なかも魅力が散見された。

東京から下田までのデラックス観光列車サフィール踊り子号に触発された、観光まちづくりが進展することが望まれるまち歩きだった。

第２部 トークセッション

※ まとめ書けず！

懇親会

※ 懇親を深める有意義な会合

第 3 部　海辺、温泉場の路地巡り見学

須崎地区

漁港に面した斜面地区の路地巡り。漁民会館を起点に標高差 100m近くの斜面地を 2 経路歩く。ほぼ住宅地だが途中に寺院（旭洞院）もみられる。斜面街路の幅員は２mほど、また階段道路の割合も多い。普段このような地区に入ることは少ないが、私自身の経験で言えば千葉県銚子の外川地区が似ている。同じく漁港に面しているが外川に比し急峻な斜面であり、外川にはない階段道路はこの地区の特色だろう。

歩いた斜面地区の居住戸数は 60 戸ほど。多くが数代前から漁業に従事していたようだが、漁業の不振や高齢化が現実にあり、空き家増える傾向にあるという。

海沿いの道路際には民宿発祥の地碑が。昭和 36 年に伊豆急行が開通し、須崎地区が民宿を立ち上げたことに由来するという。昭和 36 年といえば千葉県に住んでいた私は中学生であったが、その頃は海水浴が盛んで南房総でも民宿ができ始め、館山の民宿で合宿したことを思い出した。

須崎の地域所得構造はよくわからないが、ここでも観光というキーワードで再び民宿を盛り上げられないものかと思う。

蓮台寺地区

「稲生沢をみる、しる、ふれる　蓮台寺温泉等散策マップ」はこの地域の魅力を伝えている。今回主に松木下田市長にご案内いただいた。時間のせいか今回見られたのは吉田松陰寓寄処、共同湯、大日の森天神神社と重要文化財「大日如来坐像と四天王像」等。

こんなのどかで、地域の人と歴史を感じるところは少ないのではないか。

「大日如来坐像と四天王像」は 800 年の時を経て、今日まで地元の方々が大切に守り抜いてきたという。年間公開日は決まっているようだが、今回特別に拝観できたのは下田市や地元の方々の好意であったと思う。いつかまた来たいと思う蓮台寺であった。

下田レポート

吉永　哲司

あれは 5 年前、伊豆下田駅近くの飲み屋で、松木さんが「今度の市長選挙に出たい」と表明し、われわれ路地協メンバーは全面的に＜声援＞することになった。反対していらした奥様は、やむなく「一期だけよ」と了承したらしいが見事に当選され、今夏には再選を達成された。（市民ではないわれわれには投票権もなく、遠方在住のため選挙運動もせず、資金カンパもせず、タダタダ『声援』のみであった、残念ながら、二度とも！）

「きつかった！」の一言につきる。選んだ見学コースは崖地にへばり付いた狭くて急な階段だらけで、平坦な道はほとんどなく、しかもすれ違いも気を遣うくらい狭い。住宅の建築許可＝接道条件＝は＜どうなっているのか＞との疑問が浮かぶ位の狭い道、しかも、急峻な斜面にもメゲズ、沢山の住宅が張り付いていた。住んでいる人たちの生活＝通勤通学や買い物＝は大変だろうナ、足腰が丈夫でないと暮らせないナ、逆に、ここに住んでいると丈夫になるかも（空気もいいし）・・・などと思わせられた。

下田にとって「みなと」は、「まちづくり」の原点だといってもいいだろう。だが、肝心の漁港の現状は、破損や老朽化した滞留船舶が多く乱雑と言ってもよい。「興覚め！」も甚だしい。「港の活気ある雰囲気づくり」に気を使うよう管理者に厳しく義務付ける必要がありそうだ（罰則を設けてでも。）

ここ下田の活性化のためには、フィッシング愛好家がこの「みなと」に一泊（～数泊）して温泉につかれる宿や、自分の釣った魚を料理してくれるレストラン（漁師料理でも可）があればいいのにナ、と思う。

斜面を登ると、ひろびろとした海が見え、景色は最高、気候も温暖で、一大リゾート地としての芽もありそう。この崖地に容易にサービスされる車動線と利用料の安い駐車場が確保され、産直の魚や野菜などを使った美味いレストランが誘致できれば可能性は高まる。東京都心からも近すぎず、遠すぎず。自家用車には現状イマイチだけど、鉄道の便はほぼ満足できるし。

一方、潮風のセイか、木造建物の腐食老朽化が目立った。＜海辺の「まち」らしさ＞にも貢献している面はあるが、環境維持のコストを減ずる方策が必要だろ

う。

　幕末のペリー・ハリス・吉田松陰など歴史上の人物や、川端康成・山本周五郎などの作家の所縁がある場所や事績が多くあるので、もう少しブラッシュアップされ、案内表示や説明看板などを設置されれば、下田のアピールが強まり来外客の増加にも寄与するだろう。
　次回下田を訪問するときには「まちの絵地図」があると＜いいな！＞と期待したい。

下田の路地

木村　晃郁

１．旧町内の路地

下田市は歴史のまちである。古くは江戸廻船（菱垣廻船）の風待ち港、そして江戸幕末にはペリー来航の地として歴史を刻んできた。その歴史の中には、大地震による津波被害も含まれる。最近では安政の大地震に伴う津波被害であろうか。その津波被害後の復興は、全く同じ場所に同じような街並みが形成されたと聞いている。と、すると、太平洋戦争で空襲を受けていない下田の旧町内は江戸時代の街並みが、少なくとも街区構成は、そのまま残されていると言っても良いのであろう。

当時から区画は整備され、道路も比較的広かったのであろうと思われる。現在でもほとんどの区画道路で幅員が 4m以上あり、幅員 5m以上の道路も多くなっている。

全国路地のまち連絡協議会では、路地を定義していない。それは、人や状況により路地と感じる空間が一概に語れないと判断したからである。例えば、幅員 8mの道路でも路地という人もあり、幅員 6mの道路でも沿道の建物からの滲み出しによって路地的空間を形成している道路もある。

では、下田の路地は如何になっているか？以下に見て行く。

「豆州下田港之図」1870 年頃下田市教育委員会

①　ヒアイ（ヒエイ）

まず誰もが路地であると言うであろう路地がある。ヒアイ（ヒエイ）と言う幅半間ほどの路地がある。地震や火災時に 2 方向避難を確保する通り抜けできる避難経路だそうである。また、「下田市旧下田町　伝統的建造物群保存対策調査報告書」によると、「店先から裏庭に抜ける屋内通路（通りドマ）のこともヒアイ（ホソニワともいう）と言った」という。「ヒエイに履物を置くなと言われ、靴や草履などはたてかけておいた」という。

幅員が狭く気がつかないと通り過ぎてしまう。かく言う私も、下田サミットの路地ツアーの案内をしていながら通り過ぎてしまい、戻った始末である。

ヒアイ（中原町）

下田の路地
香煎通り
香煎塚
稲田寺
しきね川
海善寺
伊勢
大神宮
NanZ
VILLAGE
八幡神社
大安寺
鈴木邸
雑忠
旧河岸通り
泰平寺
郵便局
稲生沢川
ひもの横丁
大工町プレイス
了仙寺
昭和湯
弁天橋ボードウォーク
ペリーロード
平滑川
長楽寺
凡　例
ヒエイ
路地協推薦路地
0
100
200m

下田の路地の分布図にはヒアイとして分類していないが、新田町の町内から伊勢大神宮に向かう路地も、もしかするとヒアイかもしれない。この路地は、舗装など少ししつらえれば、参道的な空間として演出できるのではないか。

長野県飯田市では、市街地大火に学んで街区の背割り線に裏界線という同様の空間があり、一部の理解伝では舗装の高質化や裏界線の中程にコミュニティスペースがしつらえられていて、イベントも実施されるなどまちの特徴となっている。

伊勢大神宮に抜ける路地

飯田市の裏界線
（手前の広場はコミュニティスペース）

② ペリーロードとその周辺の路地

下田と言えば歴史からも観光からも、なんと言ってもペリーロードであろう。170 年ほど前にペリーが来航し、日米和親条約付録下田条約締結に際して了仙寺に向けて乗組員 500 名が行進したという。ペリーロードは、平滑川に沿った 3～4mほどの幅員のまさに路地と言っていい道路で、泰平寺のご住職の設計による石畳舗装がされている。この路地に 500 人の行進とあっては、さぞかし壮観であったろう。

幅員 3m程度、伊豆石の石畳と柳、ガス灯

川沿いには柳が植えられ、街路灯もガス灯がデザインされ、川沿いには伊豆石造りの建物が残り、当時花街であった風情をよく残している。そうした建物のリノベーションや改装による新たな出店も多く見られる。また、平滑川の南側の一部には半間ほどの幅員の路地あり、なお良い風情となっている。

車も通行可能であるが、メインの交通路から外れていることから通過交通はほとんど無く、沿道の建物への交通のみで、歩行者優先の道路となっているのがなお良い。

なお、平滑川には、うじま橋（下田城＝鵜島(うじま)城か？）、逢坂橋、（民地の入口となる橋）、柳橋、寺小路橋、霊山橋の五つの橋が架かっており、これらの橋のデザインを含めて平滑川沿いの景観を形成している。

←
平滑川と伊豆石の建物群、民地に架かる赤い橋が印象的

→
蔵づくりのリノベーション店舗

←
平滑川の南側には幅員が半間ない路地が

→
了仙寺に向かう霊山橋

ペリーロードには、ガス灯風の街灯に加えて、ベンチやテーブル、黒船をデザインしたフットライトなど様々なしつらえがある。東端の鵜島橋付近には川面に近づけるテラスが設けられている。しかし、生活のゴミ出しが修景されずに行われており、せっかくの景観が壊されている。特定の日の午前中の一時的なものとはいえ残念である。

なお、鵜島橋を渡ったところには、伊豆石の塀となまこ壁造り旧澤村邸が保存されており、無料休憩所やギャラリーとして利用されている。

黒船をデザインしたフットライト

平滑川のテラス

鵜島橋と旧澤村邸

ペリーロードの周辺には、いくつかの路地が接続している。その内、長楽寺に向かう階段路地は、店舗の中庭を経由して、曲がりながら登っており、空間を重層的にし、その先への期待感を持たせてくれる。沿道の建物等の修景を行えば、散策路として魅力的な空間となると思う。これらを含めて、ペリーロード全体の魅力を高めてくれている。

ペリーロードから長楽寺に向かう階段路地

長楽寺に無か階段路地からペリーロードを望む

ペリーロードから弁天橋に向かう路地（Google）

③　旧町内の区画道路

市長の松木氏は、2023 年 11 月の全国路地サミット in 京都の次回開催地挨拶で、「下田は町中が路地ですと」とおっしゃったが、たぶん会場の雰囲気に乗って発言されたものと思われる。確かに、国道 135 号・136 号や、県道 117 号線（下田港線）、マイマイ通りなどの大通りに比べれば、旧町内の区画道路は全て路地なのかもしれない。しかし、幅員 5m 以上あって、車が走り抜けていく道路は路地とは言いたくないのが路地協としてのスタンスである。

その中で、幅員に加え、ロケーションや線形、舗装などの設えなど、路地的雰囲気があるものを路地として紹介したい。

＜香煎通り＞

伊豆急下田駅から国道 136 号を南に渡ったところに、黒い木を組んだ門がある。まさに旧町内の入口の風情である。ただ、この辺りが旧町内であるかは地元の方に判断を仰がなくてはならない。

それはさておき、黒門には大きく香煎通りと看板が掲げられている。路面は過去に緑色に舗装されていたようだが、今は白っぽい IO の舗装になっている。この路地のマンホールにはその名残で緑色に塗られている。マンホーラーから見ると、カラーマンホールではないかと勘違いしてしまう。幅員といい、沿道の店舗の立地といい、なかなかいい路地である。願わくは、舗装の向上、沿道建物のリファインなど、しつらえの向上をされたい。

この路地のほぼ中程に「香煎塚」があり、この路地名の由来である。香煎塚には由来版が掲げられており、曰く「今は昔、下田村の新田の在に、こうせん婆さんの墓が有ったそうな。何でも真田幸村の殿様に仕えていた位の高いお方で、須崎から来たらしい。香煎を喉に詰まらせて亡くなったと謂うが、お参りして咳の直った人が、こうせん菓子を持ってお礼参りに来たものじゃ。そこで、昭和の初めに、稲田寺さんから土地をもらい、新田の衆が祠を建てたという訳じゃ。今でも喉を病んだ人や、唄の上手になりたい者がお茶を持って願掛けに来るようじゃよ。」とのこと。歌で立身しようという向きは是非お参りされたい。

香煎通りと黒い門

＜香煎通り周辺の路地＞

香煎通り周辺は、下田では路地密集している地区である。香煎通りに平行している路地は、しきね川を橋が斜めに渡り、路地の先に期待感を持たせくれるとともにしきね川を視界に入れてくれる。しきね川沿線の景色が良ければ尚良いのであるが、そこまで期待するのは酷か。

香煎通りと平行するこの通りを結ぶ路地があるが、残念ながらこの沿道は空地が多くなってしまっている。この沿道に飲食点など立地すれば界隈性がまして尚良いのであるが。

香煎通りに平行する路地
橋が斜めに架かり、先への
期待感を高めてくれる

しきね川

路地は、あみだくじのようにクランクしながらさらに南へと下っていく。香煎通りから区画道路を渡り、筋を若干違えて南にさらに細くなって、この道抜けられるのと思っていたら、高齢の女性がすたすたと歩いて行く。その様子を見て抜けられると確信を持った。両側の家が近く息づかいが聞こえてきそうである。50mほどで、稲田寺（とうでんじ）の門前に出る。稲田寺には、安政の東海地震後の大津波で犠牲となった方々を供養する津なみ塚が建立されている。

香煎通りから稲田寺へ

稲田寺から海善寺へ

さらに路地はつながっている。先を行くご婦人はさらに細い家と家の隙間に入っていく。ご婦人は路地使いの達人か？。路地さらに細くなり、半間ない。右側は石塀、左側は鉄フェンス。無粋であるが、通り抜けられるのかワクワクする。この路地で対向者とすれ違うのは至難の業だろうと思う。60mほどで海善寺の境内に抜けた。件のご婦人は。海善寺の山門の脇を抜けてスタスタと去って行く。

私は、通り抜けた満足感で「いいねえ」と心の中でつぶやくのであった。

＜寺社周辺の路地＞

マイマイ通り西側には、既に紹介した稲田寺や海善寺も含めて多くの寺社が集積しており、寺町となっている。これらの参道も良い景観を呈しており、路地として紹介したいところであるが、参道であるので敷地内の通路となるのではないか。ただ、それに付随して民家が建っており、そこは路地と言えるのではないか。その路地の中から一つご紹介したい。泰平寺の路地である。

マイマイ通りを南に下り、右側に山田屋米穀店（左側は河井医院）の信号を右に曲がる。しばらく行くと左側に八百屋が見えてくる。その手前の駐車場との間に幅半間ほどの通路がある。すぐ突き当たりが見えていて植栽が植わっている。一見、民家へのアプローチに見えるが、左側の民家の軒先を進んでいくと路地はクランクしてさらに奥へと続いて行く。奥に見えた植栽は泰平寺の植栽で、それを右に見てさらに民家の軒先を進むと、泰平寺の山門前に出た。

この路地は、入っていくのになかなか勇気の必要な路地であるが、ワクワク・ドキドキ感のある路地となっている。この路地には猫が住んでいるので、ごめんなさいよ、お邪魔しますよとご挨拶して、静かに通り抜けよう。

八百屋さんの脇の路地

路地はクランクしてさらに奥へ

ちなみに、泰平寺のご住職は建築家でもあり、泰平寺の今の伽藍の設計もご自身でなさっている。参道はコンクリート舗装に伊豆石をイメージしたスリットを入れ、両側の塀もきれいなコンクリート打ちっ放しとなって、アイストップの山門と相まって印象的なしつらえとなっている。山門の中には幾何学的な四角い蓮池の中、西側に仏殿と法堂の 2 棟が並んでいる。7 月の睡蓮の盛りに行くと蓮池にこの 2 棟が浮いているようである。また、水面の揺らめきに太陽光が反射して、この 2 棟の白い壁や軒裏に美しい光の模様を映し出している。この法堂には、画家井上公三氏の椿の大きな絵が 4 枚掲げられており、中央のお釈迦様と相まって荘厳な雰囲気を醸し出している。

（KOZO ホームページ参照
https://kozoinoue.com/note-top.html ）

また、蓮池の北側には蓮池に大きな硝子窓を向けた、待合空間がある。法要に訪れ檀家さんの休憩や談話スペースとして使われているようだが、カフェとしての使用も想定しているとのこと。

一般の拝観は受けていないとのことであるが、参拝は可能なようである。

泰平寺の参道

蓮池の中に浮かぶ仏殿（手前）と法堂（奥）

法堂の内部

仏殿の壁に蓮池の反射光が

＜大工町の路地＞

ペリーロードの北側、下田港に面した大工町には、大工町プレイスと弁天橋ボードウォーク＆ポケットパークが整備されている。この二つは、歴史まちづくりなどを念頭に、ハード・ソフト両面から整備を行っており、ペリーロードの人の流れをまちなか（旧下田町内）に促すため、景観に配慮した、歴史や文化を感じる、散策して楽しい場所づくりである。大工町プレイスの南側には土藤商店があり、大工町プレイスに面した壁面は南伊豆製氷所の伊豆石を使用して、曰く「下田のまち遺産「人の暮らし」も醸し出す空間」となっているという。

大工町プレイスの西側には、大工町プレイスと同じ舗装で、白っぽいコンクリート舗装に石畳様のスリットが入っている路地がある。この路地は、幅員も 3mほどで緩やかにカーブを描いており、南端から 25mほどのところに旧町内唯一の銭湯昭和湯があるなど、様々なエレメントを有している路地である。昭和湯のお湯は温泉となっており、旧町内のホテルやゲストハウス宿泊者には、温泉を手軽に体験できるものとなっている。

土藤商店の西側向いには土藤商店の倉庫？を展示スペースにして昭和の懐かしい生活に関する品物が展示されている。また、その壁面には大正 5 年の下田の鳥瞰写真が掲示されている。

大工町プレイス

大工町プレイス

大工町プレイス西側の路地、右側が土藤商店の展示スペース、壁面に大正 5 年の下田鳥瞰写真

昭和湯

また、大工町には下田港に沿って、弁天橋ボードウォーク＆ポケットパークが整備されている。海岸沿いにボードウォークが整備され東京ではこぞってカップルが歩きそうなスペースとなっている。また、民地との間の三角形のスペースがポケットパークとして整備され、シュロの木やベンチが設置

されている。

ただ、残念ながら大工町プレイスも弁天橋ボードウォークもほとんど人影がない。平日はさておき、路地サミットの当日、土曜日の午後であるが路地ツアーで訪れたが、やはり人は一人もいなかった。スペースだけではなく、隣接して飲食店を誘致するか、キッチンカーを呼んでくるか、そうしたことが必要ではないか。これらの整備のコンセプトでうたっている様に、「ハード・ソフト両面から整備」が必要と考える。

弁天橋ボードウォーク

ボードウォーク中央部分のポケットパーク

＜ひもの横丁の路地＞

大工町の北側、原町に、昭和湯前の路地の延長部分を含めてひもの店が集積している一角がある。ひもの横丁と呼ばれているようであるが、地図によってひもの横丁と記されたところが異なっており、明確な位置は不明である。

昭和湯前の路地（延長部分を含む、以下旧河岸通りという）から東側は安政の津波被害から復興するため、がれきを稲生沢川に埋めて拡張した区域で、旧河岸通りがその前の海岸線であった。その埋め立てた区域の中の区画として路地が形成されたようである。

そういえば、東京も関東大震災のがれきを埋め立てて今の首都高速道路ＫＫ線ができている。そのほか簡単にがれきを処理して、土地を生み出すために埋められた河川・水路があったようだ。

伊豆石造りのひもの店

ひもの横丁付近の路地（Google）

＜雑忠・鈴木邸付近の路地＞

旧河岸通りは前述したが、埋め立てられる前の海岸線をトレースして緩やかにカーブしている。幅員も狭くなまこ壁の建物も散見され、古い下田の風情を残している道である。一部には道路幅員が絞られ、通過する車も減速せざるを得ない部分も見られる。

そして、下田で最もよく残されている古民家の雑忠と鈴木邸もこの近くに立地している。

旧河岸通り（大工町から原町を望む）

旧河岸通り（中原町）

旧河岸通り、カーブを描いている（長屋町）

旧河岸通り、狭さく部分（長屋町）

雑忠と鈴木邸

雑忠と鈴木邸の間の道、昭和湯前と同じ舗装

＜住吉稲荷周辺の路地＞

住吉稲荷に突き当たる路地は住吉稲荷の参道のようである。現在（2024 年 11 月現在）、昭和湯前と同じ舗装に改良工事が行われており、完成した暁にはより参道としての雰囲気を増していることであろう。住吉稲荷周辺も路地的な道が集積している。住吉稲荷前の東西の道も幅員が狭く路地的空間である。特に東を望むと稲生沢川に視線が抜け、その先に寝姿山の緑が見え散策に良い路地となっている。

住吉稲荷に突き当たる路地

住吉稲荷に突き当たる路地、舗装工事

住吉稲荷前の路地、寝姿山の一部が見える
（Google）

住吉稲荷前の路地から西へ、さらに狭い路地が続く

旧河岸通りは、旧町内の最北部でみなと橋に至る道に突き当たっている。その交差部みなと橋のたもとには伊豆石となまこ壁の加田邸が建っており、シンボリックなものとなっている。

また、そのみなと橋のたもとから北に向かって稲生沢川沿いにペーブされた道が整備されている。この道をたどっていくと、しきね川沿いになって駅前の観光案内所に至る。この道沿いに NanZ VILLAGE というテラスを中心とした飲食店・店舗が立地している。数年前はもう少し店舗があって人もたまっていたと思うが、今は店舗も減って人影もない。

旧河岸通りの最北端部

みなと橋たもとの加田邸、右側は旧河岸通り

稲生沢川沿いの路地

NanZ VILLAGE

＜旧町内の路地＞

下田の路地は旧町内の外縁部を巡っている。今回ご紹介した路地をたどってみると、以外と下田の歴史的史跡や観光施設・名所、伝統的建築物などを巡れることがわかった。これは、意外な発見であった。

下田は観光地としてのポテンシャルは非常に高いまちである。歴史とその資産、伊豆石となまこ壁の伝統的建築物、海と温泉、いずれも他の町でその全てを新につくることは難しい。また、大工町プレイスや弁天橋ボードウォーク、NanZ VILLAGE など新しいプレイスが創出されているとともに、市の補助金により空き店舗の再生も進みつつある。

路地はその狭い幅員が故に車の進入が少なく、コミュニケーションや買い物に安心して通れる道である。こうした路地を生かして、沿道に積極的に店舗や飲食店、宿泊施設などを誘致すれば、旧町内の回遊性が増し、歩いて楽しいまちづくりが進むのではないか。何より、市民に楽しい街なかの再生を進めてほしい。市民が楽しいまちこそ、来街者も訪ねて楽しいまちであるはずである。

イベント時の郵便局北側の駐車場

イベント時の池之町通り

下田ポケット　美松寿司前（ﾊﾝｷﾞﾝｸﾞﾊﾞｽｹｯﾄ通り

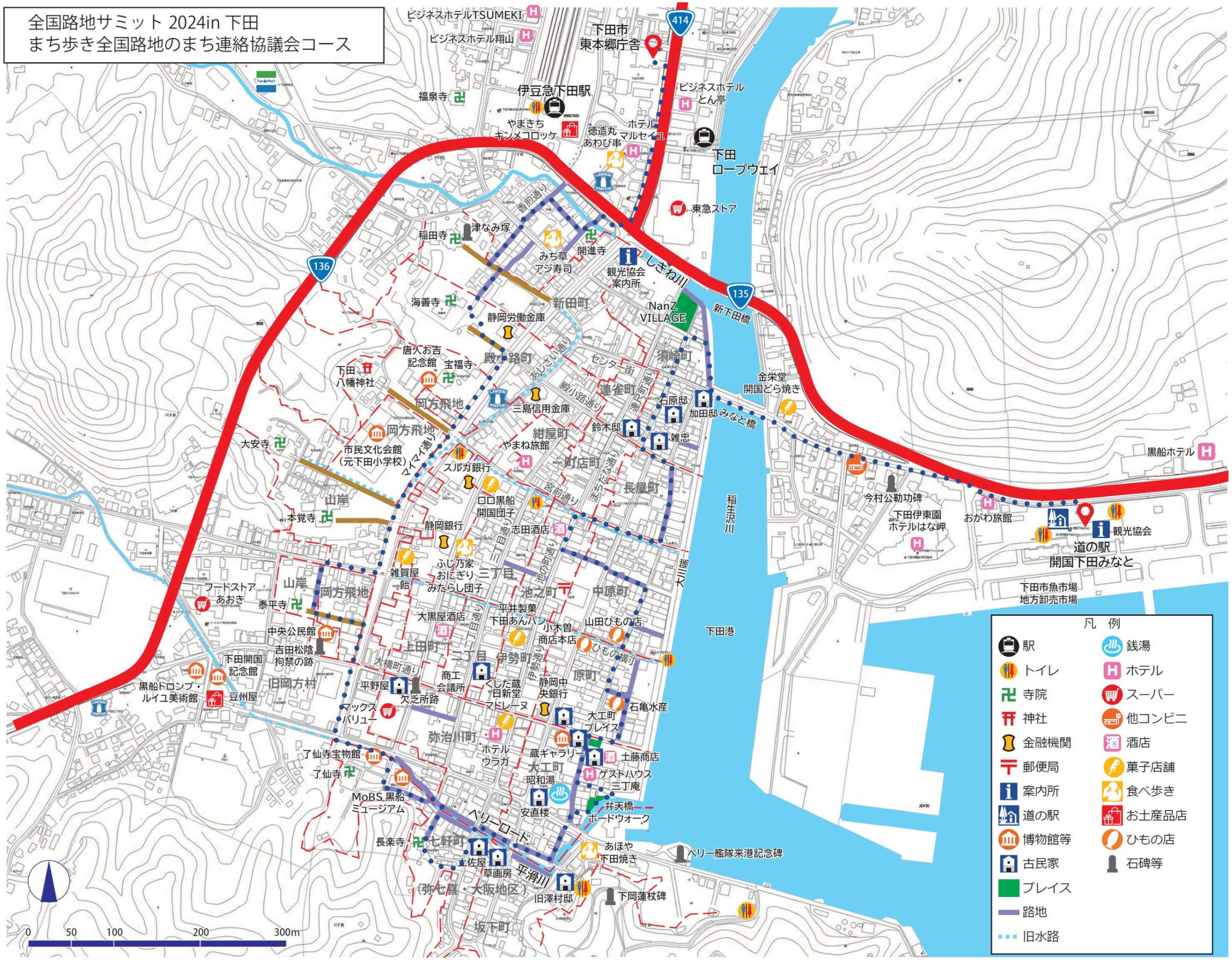
下田ポケット　弁天橋ボードウォーク

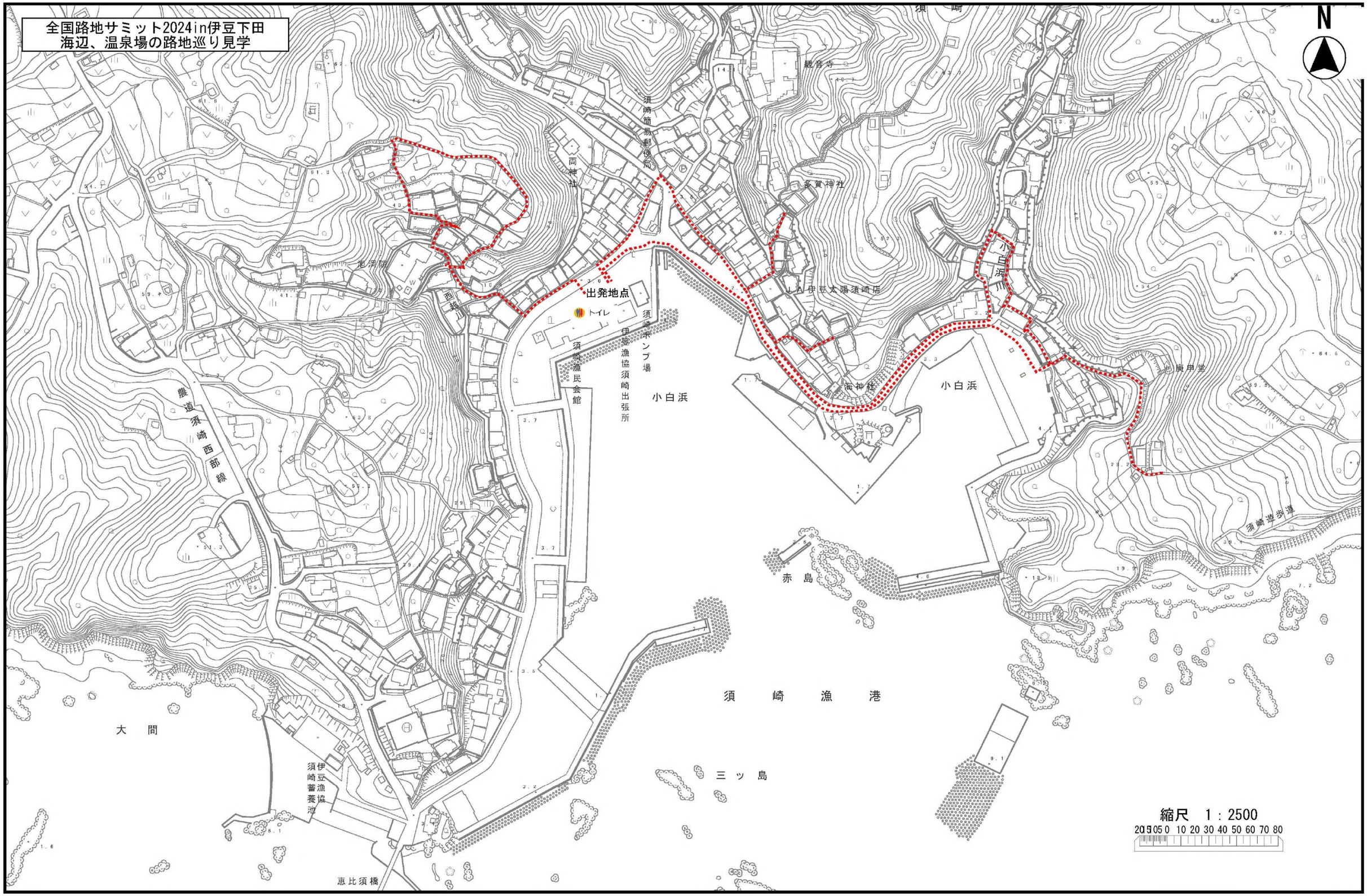
下田ポケット　美松寿司前

下田ポケット　稲生沢川岸壁

下田ポケット　大工町プレイス

全国路地サミット 2024in 下田
まち歩き全国路地のまち連絡協議会コース




全国路地サミット2024in伊豆下田
海辺、温泉場の路地巡り見学
N
須崎
観音寺
須崎簡易郵便局
両神社
多賀神社
地蔵堂
西横川
出発地点
トイレ
須崎漁民会館
伊豆漁協須崎出張所
須崎ポンプ場
小白浜
JA伊豆太陽須崎店
小白川
海神社
小白浜
庚申堂
農道須崎西部線
須崎遊歩道
赤島
須崎漁港
大間
三ッ島
伊豆漁協須崎蓄養池
恵比須橋
縮尺 1：2500
20 15 10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80

２．須崎の路地

今回の全国路地サミット２０２４in 下田で、ご案内いただいた須崎の路地をご紹介する。内容は、あくまで、筆者木村の個人的な意見であるので、ご注意いただきたい。

須崎漁港の路地は、急峻である。小白浜に沿った傾斜地に貼り付くように町並みが形成されている。路地ツアー参加者も、最初は歓声を上げながら登り始めたが、その内無言になっていた。1 間半程度の幅員階段路地が、右に左にカーブを描きながら、急傾斜地に縦横に張り巡らされている。階段の折り返し部分などからは、晩秋の太陽光がきらめく小白浜を望むことができる。この急峻な階段路地を歩く者にとっては、唯一のご褒美ではないか。

階段から見下ろす町並みは、屋根ばかり見えている。逆に、階段から見上げる町並みは、住むための平地をつくるための擁壁と階段と敷地境界のブロック塀である。伊豆石積みの擁壁が良い。一つ一つの石が形も色も違っていて、全体として素敵なマーブルになっている。石なのに、かえって温かい印象を受ける。

元気な頃の参加者たち

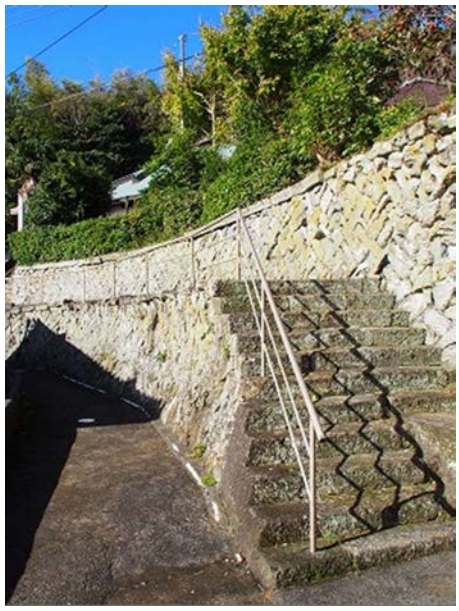
須崎漁港小白浜　太陽光で海面が光っている

擁壁と建物の間から小白浜が見える

階段から見えるのは階段と擁壁

一際美しいのが、西側の集落にある旭洞院の擁壁である。傾斜をトレースして、緩やかな弧を描いて 3 段のひな壇を形成している。まるでステージのようである。擁壁の上には一本の柿の木があり、その橙色の実が青い空に映えている。この旭洞院前は、路地の交差点となっておりその内の一本の階段路地には結界を示すのか、敷き紙の上に丸い石が置いてあった。

旭洞院とその擁壁



旭洞院の擁壁

結界？

旭洞院の柿の木

旭洞院前の広場で説明を聞く参加者。旭洞院前には、5 本の路地が集まっている。

解説する駒沢女子大学小川准教授

旭洞院前を直進してさらに急峻な階段路地を登っていく。まさに巨大な迷路のように複数の階段が重層している。ひとしきり登ると、集落の最上部に着いたのか、比較的広く傾斜の緩い道路となった。沿道も擁壁と塀ではなく土の法面と樹木になった。そして再び建物と建物の隙間に入っていく。急な階段を降りると先ほどの旭洞院前に出た。結界のような石を置いてあった路地である。

再び屋根の向こうに小白浜

階段、擁壁、塀が重層して景観を形成している。

階段が巨大迷路のように巡っている

集落の最上部か？緩やかな路地に出る。

再び建物と建物の隙間の路地に

旭洞院前に降りていく長い直線階段路地

旧町内方面から来る道路が小白浜に出る部分は、比較的平坦な部分が多い。と言っても、そんなに広い区域ではないので、道路を当然狭く、屈曲している。西側集落と較べて傾斜が緩いと言うことになろう。まさに漁村の路地と言った風情を見せてくれている。

右に左に緩やかにカーブする路地

路地はさらに細くなる

ツアーはさらに東進して行く。ルート図ではツアーコースとなっている多賀神社へ登っていく路地であるが、当日の季節外れの暖かさと、西側集落の行程でへばり気味の一行をおもんぱかって、割愛となった。しかし、そこは路地協としては、見逃すわけには行かない。ツアーに迷惑をかけない範囲で、ツアーを外れて見に行く。見事に、階段がつづら折りになって、家と家をつないでいる。中には、道の階段と家への階段が並行して、非常に面白い空間となっているところもあった。

階段路地はつづら折りに家と家をつないでいく

道の階段と家へのアプローチの階段が並行している。

さて、須崎の路地ツアーも最終局面を迎えている。船揚場を通り過ぎて小白浜東側の集落に入る。

ココも、西側集落と較べて傾斜が緩い。しばらく行くと、左側階段の下に旅館「浜屋」の大きな看板が見えてくる。旅館は、その階段を上った先にあるようだ。良く見ると、その階段脇にモノレールが設置されている。旅館の貨物用モノレールと思われる。

ツアーは、その先で右に折れてまたしても家と家の間の隙間に入っていく。

路地と敷地の境のでこぼこがなんともいい

本宅と倉庫？の間も通路に？

旅館へのアプローチとモノレール

この先も山側敷地は路地から階段を上っていく

やはり隙間路地に入っていく。地元の方が漁具のメンテナンスをしている

さらに、本宅と物置の間を当たり前のように通っていく。そして、抜けた先に、水色の瓦屋根を乗せた見事な伊豆石の建物が見えてきた。１階部分と２階部分の石が違うようである。１階部分は、硬質な感じがする。単に面をきれいに削っているだけかもしれない。これに対して２階部分は面の荒さを感じる。そして、２階部分の壁面がペイズリー柄のように見える。ツアー一行もしばらく建物を見つめる者もいれば、カメラに収める者もいて、このツアーのクライマックス的なところであった。

須崎の路地は、漁港集落であり、急傾斜地であるが故の特徴を持った魅力のある路地である。また、地区内の民宿では、地産の魚介類や山の幸で、とてもおいしい料理をいただくことができる。こうした料理をランチなどで手軽に提供するとともに、モデル散策コースなど観光客を誘引できるサービスの創出が必要と考える。

一方で、集落では高齢化が進み、空き地や空家が増えているようである。このような急傾斜地においては、路地の保全だけではなく集落としての持続のためにも、新たなパーソナルモビリティの開発が進むことに期待せざるを得ない。

母屋と倉庫の間を抜けていく

伊豆石の見事な建物

伊豆石の建物の先も、敷地と道路が判然としない

民宿「ぜいもや」。おすすめの宿である。

船揚場

漁具置き場

３．蓮台寺

蓮台寺というと、私たち東京モンは、観光案内の「千人風呂」を思い浮かべ、温泉旅館街があるものと勝手に想像してしまう。実際は、千人風呂の金屋旅館や花月亭などがポツンポツンと単独で立地していることを知った。下田の旧町内もそうであるが、下田には温泉の街という風情が残念ながらない。

今回のツアーでは、天神神社＆大日如来・四天王と吉田松陰寓寄処を視察させていただいた。大日如来と四天王は仏像に興味がないと観光資源になりづらい部分もあり、他の観光資源との脈絡も弱いと感じた。しかし、天神神社には、幸田露伴歌碑があり山本周五郎・花月亭と関連付けられる。

天神神社

吉田松陰寓寄処は、天神神社脇の県道１１８号線からのアプローチ道路の景観が素晴らしく、石畳の路地が曲線を描きながら石垣の擁壁を見せている（視察時は工事用鉄板が敷かれていて残念であった）。

石畳をたどっていくと竹垣に藁葺き屋根の吉田松陰寓寄処にたどり着ける。この吉田松陰寓寄処は、「1854 年 3 月 18 日ペリー艦隊を追って弟子の金子重輔とともに下田に来た吉田松陰は、皮膚病治療のため、たまたま訪れた蓮台寺の共同湯で、村医者の村山行馬郎と知り合い、その好意によって数日間寄寓した。松陰の居間として使われた二階の天井の低い部屋（隠れの間といわれる）や掘り下げられた内湯の浴槽等が当時のままに保存されており、松陰が使ったと伝えられる机や硯箱とともに当時の面影を残している。」（しずおか文化財ナビ）とのこと。

県道から吉田松陰寓寄処へ向かう路地

石畳の路地と竹垣、藁葺き屋根が調和して、とても良い景観を見せてくれている。また、その周辺の民地の庭園・農園の伸びやかな風景、さらに山の麓沿いの石畳の散策路など十分観光資源となり得ると考える。

石畳の路地は右に左に曲線を描きながら吉田松陰寓寄処へ向かう

吉田松陰寓寄処の藁葺き屋根、竹垣、石畳の路地が調和して良い景観となっている

この石畳の路地は、吉田松陰寓寄処前と白塀の間を抜けてさらに続き、県道方面の広い石畳の道路とさらに山裾を巡る路地へと別れている。山裾の方面の路地は、さらにカーブを描きながら石垣や周辺農地などの間を抜けていく。この路地は何処まで続くのだろうと歩くものの期待感を持たせてくれる。

吉田松陰寓寄処

吉田松陰寓寄処の竹垣と向かいが和の代壁が印象的

石畳の路地はさらに山裾を奥へとカーブを描きながら続いている

かたや、県道に向かう道路は、矩形の石畳となっており、大寺院の参道風となっている。その県道との交差部の少し手前に私設の足湯がある。地元の方の完全な好意によるものである。また、交差部にある「おもてなしの馬車道」には、過去の写真などが掲示されており、まち歩きのスポットとして活用できる。

この路地は「蓮台寺湯の華小路」と名付けられており、手湯や足湯、案内板も整備されている。望むらくは、この路地の中にコーヒーやお茶を飲めるカフェや広場などで、ゆったりした景観を楽しみながら休憩できるスペースがあると良いと思う。

県道方面への石田畳

私設の足湯

また、蓮台寺のまち歩きルートとして「稲生沢（いのうざわ）をみる、しる、ふれる。お散歩するのにちょうどいい！散策マップ」があるが、「蓮台寺湯の華小路」を除いては、県道の路側帯であり、お世辞にも歩きやすいとは言えない。今後、県道部分については、十分な歩道幅員の確保や安全柵等の整備、休憩できるベンチ的なファニチャーなど、歩きやすいしつらえが必要であろう。また、これに加えて、沿道に飲食可能な店舗の誘致も有効であると考える。

お散歩するのにちょうどいい！

稲生沢（いのうざわ）をみる、しる、ふれる。

河内温泉・蓮台寺温泉

散策マップ

稲生沢で楽しむ季節めぐり

しだれ桃や桜などの春の花が一斉に咲き、あたり一面が春らしい景色に包まれる時期や、温かな手湯や足湯に浸かりたい冬の時期を稲生沢で過ごしてみてはいかが？　春と秋・冬におススメのコースを紹介します。

春の花満喫コース　3月下旬～4月上旬

しだれ桃の里を中心に、満開のしだれ桃や桜、広台寺のシャクナゲを見るコースです。しだれ桃の里祭りや大日如来坐像の拝観日に合わせて散策するのがおすすめです！

秋・冬のお手湯コース　10月～3月

お湯に触れ、あたたまりながら散策するコースです。湯の華小径沿いには、あちこちに源泉から溢れ出たお湯（手湯・足湯）が流れています。日帰り温泉のある旅館に立ち寄ってゆっくりあたたまるのもおすすめ。10月7～15日、12月31日～1月3日は大日如来坐像拝観日です。合わせてどうぞ。

★「お手湯の手ぬぐい」を道の駅「開国下田みなと」の「まるごと下田館」で販売しています。1枚300円。

お問い合わせ
下田市役所 建設課都市住宅係
TEL：0558-22-2219　FAX：0558-27-1007
Mail：kensetsu@city.shimoda.lg.jp

４．参考資料

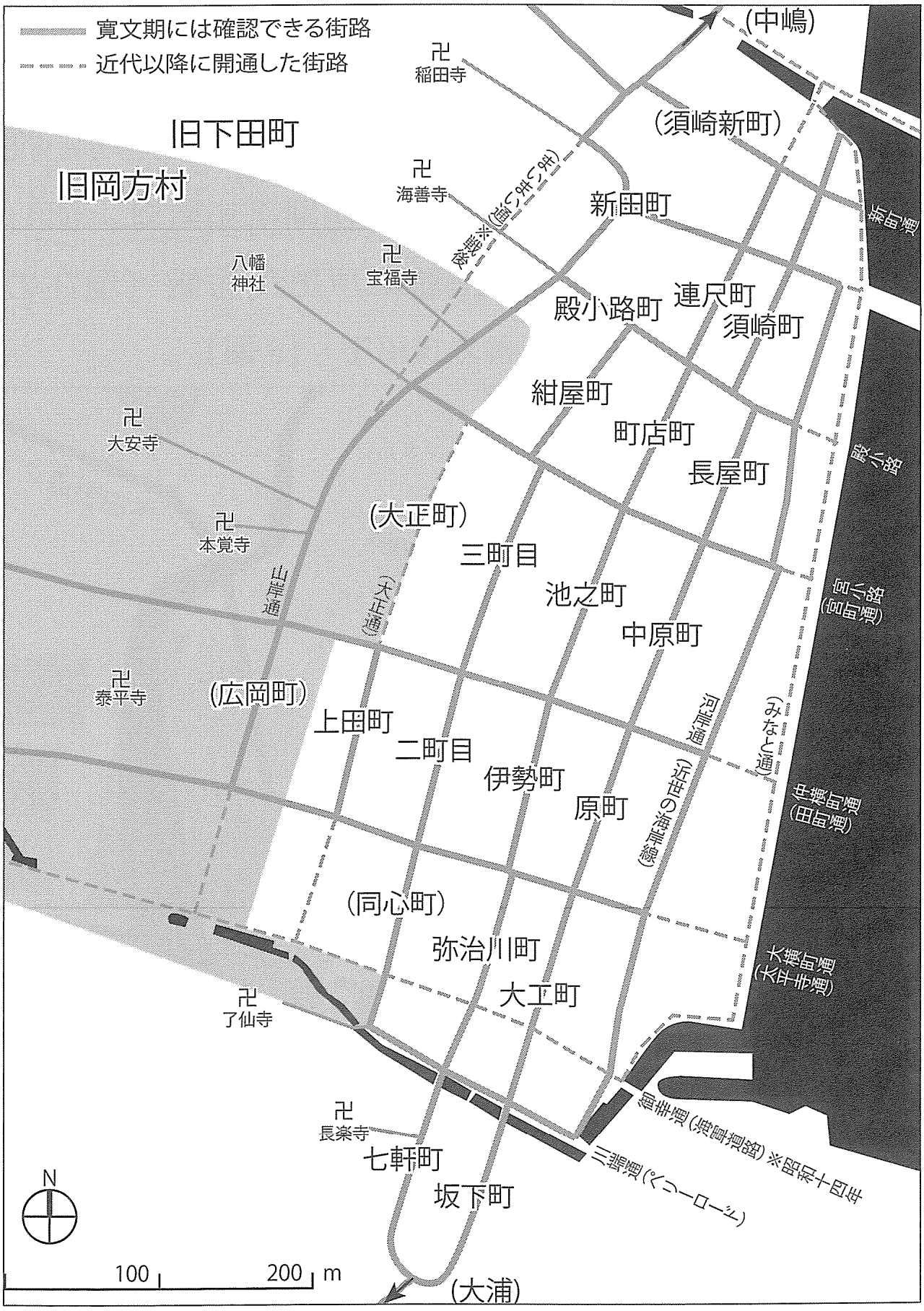
下田市旧下田町　伝統的建造物群保存対策調査報告書　Ｐ７９

下田の町には「ヒアイ（ヒエイ）」と呼ばれる細い路地がある。『下田町の民俗－下田市－』（静岡県教育委員会、昭和 63 年）によれば、ヒアイとは行き止まりの路地ではなく奥まで通り抜け可能な路地、また店先から裏庭に抜ける屋内通路（通りドマ）のこともヒアイ（ホソニワともいう）といったという。そしてヒアイは火事が起こった場合の逃げ道であり、「ヒエイに履物を置くな」と言われ、靴や草履などはたてかけておいたという。ヒアイはいざというときの避難路として空けておかなければならなかったのである。

【図 9】「麁絵図」と明治「野取図」との照合

第２節　個別解説

【図 1】個別解説物件の所在地



【図 4】旧町と通りの名称（地図は現状の市街）

下田のまちに思うこと

木村　晃郁

下田市を訪れるのは何回目だろう。ここ数年は、市長の松木正一郎さんとの意見交換会なる飲み会でお邪魔している。最初に訪れたのは、学生時代設計事務所でアルバイトをしていて、そこの技術庶務をしている女性がウィンドサーフィンをしていて、教えてくれるというので社員の男性１名とアルバイト２名の４名で下田（たぶん須崎）の民宿に泊まったことが最初だと思う。４４年前くらいか？この時は、街なかには行かなかった（と思う）。次に訪れたのは、大学４年の時に研究室のゼミ旅行で松崎から下田をまわったはずであるが、手湯・足湯があったことのみ印象が残っている。

2013 年に家族旅行で下田に訪れている。このときは、商店街にカジキのバナーが下がっていて、まだ、今より店舗が開いていた記憶がある。ペリーロードも、手湯も記憶に残っている。また、市内のあちこちに風車が飾られているのと、フラワーバスケットが印象に残っている。

2018 年に飾られていた風車

2017 年に置かれていた手湯

そして、2018 年に下田の駅前のまちづくり検討会（正式名称は不明）で「まちづくりと駅前広場整備」と題して講演させていただいた。このときも、風車や手湯は残っていたことを確認している。

そして、松木さんとの意見交換会で 2020 年に訪れて、2022 年、2023 年、2024 年とほぼ毎年お邪魔さっせていただいている。

こうした中で、下田について以下のように感じている。

〇シャッターが増えている
〇風車はなくなった
〇手湯もなくなった
〇街なかを車が結構なスピードで走っている
〇相変わらず街なかには人がいない

一方で

〇市民が気軽に過ごすプレイスが整備された
〇一部の道路で舗装が改善されている

人通りのない商店街

大工町プレイス

弁天橋ボードウォーク

そして、今回のサミットで訪れて、決定的に思ったことは

〇観光地であるはずの下田なのに街なかに観光客が見当たらない。

〇下田は温泉地なのか？温泉は駅前の足湯のみ？

今、下田は、インバウンドもあり宿泊施設の予約が取りづらいと聞いている。また、宿泊費も高騰していると言う。しかし、この人たちは、一体何処を訪れているのだろう。ペリーロードには確かに観光客が見られるが、それ以外で見かけることがないのである。この人たちが、まちなかをそぞろ歩いてくれれば、賑わいも生まれてくるだろうにと思う。

もし、下田に泊まりづらく、泊まれても高額な宿泊費の状況が続いたら、国内観光客から下田が訪れる候補地から外れてしまうのではないか。インバウンドが去ったあと、下田の観光はどうなってしまうのだろうと思う。その昔、清里が人気を博し、その近傍で第二の清里を狙った原村が、ブームが去った後、惨憺たるものになった。テレビで取り上げられた飲食店が、一見さんで賑わったあと、常連さんもいなくなって閉店したと言うことも少なくはない。

下田で、街中でホテル的な取り組みはできないものかと思う。NIPPONIA や SEKAIHOTEL、京都 NAZUNA など、各地でも行われている。

例えば、空き家をリノベーションして宿泊施設を整備する。こちらは宿泊機能のみである。一方で、既存の飲食店や空き店舗をリノベーションして飲食店を整備し、夕食や朝食を提供する。寝食分離型のホテルである。また、浴室は、昭和湯はもちろん、例えばやまね旅館さん等のお風呂を日帰り利用するのである。こうすれば、街中で宿泊に関するシェア経済が形成でき、必然的にまちなかを歩く人が増えてくる。まちなかを歩く人が増えれば、それを目当てに店舗も新しく立地してくるのではないか。まちをマネジメントして、こうした分業による経済を回していくことはできないか。江戸のまちは、高度な分業制で成り立っていたようで、世界的にも高い経済成長率を保っていたという。

そのためには、もう一つ課題がある。私は、写真が趣味であるので、まちを歩いてはペリーロードやちょっとした街並みをカメラに納めてまわっている。今年、６月に訪れたときにペリーロードで写真を撮っていたときに、柳橋でかなりなスピードで走ってきた車にクラクションを鳴らされた。そんなに、邪魔な位置ではないと思っているのであるが・・・。街なかも干物屋が集積している辺りも意外に車の交通量が多い。おちおち、干物を見比べることも危ない。

街中をウォーカブルな街に変えることが必要ではないか。

旧町内はそんなに大きな区域ではない。フリンジパーキングなど整備して、旧町内の交通量を減らして街なかを歩いてもらう。もちろん居住者のみ通行以下などにより通過交通は減らすのである。どうしても車両の通行を止めることができない場合は、制限速度を 20 ㎞や 30 ㎞にするなど。最近「ゾーン 30」という、生活道路の制限速度を 30 ㎞/h とする取り組みがされているが、思い切って「ゾーン 20」にしても良いと思う。併せて、現在市で行っている舗装の向上もしていく。池の町通りのように路面全部ではなく歩道部分だけでも良いと思う。

住吉稲荷前の舗装工事

大工町プレイスや弁天橋ボードウォークなど、人が貯まるスペースがいくつか整備された。また、国道下田橋のたもとには、ＮａｎＺＶＩＬＬＡＧＥがあり、若者たちが集まり易いスペースがいくつか整いつつある。それでも、旧町内には人影が少ない。大工町や弁天橋に人がいない。うら寂しいと表現せざるを得ない。8 月にサミットの打ち合せで下田を訪れて、市長との会食後夜まちを歩いたときに、下田太鼓祭の練習風景に出会った。まち（路上）に人がいて、ワサワサしていて、市長を見つけては「今晩は」「何してんの？」等の会話が交わされて、私の胸の中でゾワゾワした感覚を覚えた。私の脳が、何かの期待感が生まれ、まちが楽しいぞと言っている。

下田太鼓練習の人たちとふれ合う

よく、中心市街地や観光地の活性化で、地元の人が楽しんでいないまちが外から来た人が楽しいはずがないと言う。私も賛成である。浅草や旧東海道品川宿では、地域の人たちが祭やイベントを自分たちが楽しむことによって維持してきている。その中から、地域に対する愛や誇りが生まれ、街並みの保全・再生やイベントの運営が不断の取り組みとして行われ、その結果として観光地としての賑わいを維持している。

石巻 COMICHI 路地の賑わい形成

下田の人が街なかに出てきて、賑わいをつくり出すことも必要ではないか。そのためには、飲食店がルールをもって道路に席を出したり、店舗も扉を閉めないで、工房も店の扉を開いて作業を見せたり、日常を街なかに開いていく取り組みがあっても良いのではないか。現在「山の朝市」を下田駅で、「海の朝市」を下田市場で開催しているが、街なかの道路でできないか。「海の朝市」は稲生沢川ぞいの岸壁でも良い。道路を車から人の空間として取り戻すそんな取り組みができないだろうか。

青森八戸　館鼻岸壁の朝市の賑わい

郵便局の北側の駐車場が、イベントの会場として利用されている。これも常設化できないだろうか。その一部には、若い人の創業支援としてチャレンジショップを配置するなど、高い投資はいら

郵便局北側の駐車場でのイベント

ない。

また、下田って温泉地だっけ？と後から思う。もし、可能であれば温泉地としての風景づくりや拠点が必要ではないか。例えば、温浴施設をつくるなど。事例として良いかはわからないが、西武鉄道は、西武秩父駅に併設して、温浴施設「祭の湯」を整備した。これを街なかに整備できないか。

西武秩父駅　祭の湯

市の空き店舗活用補助金により、新たな店舗の出店が多く見られるようである。私も、前泊して市内を視察するとともに、これらの店舗のいくつかを訪れてみた。伊勢町の焼き鳥の店は、焼き鳥もうまいが日本酒のそろえも良い。飲み比べセットもあり、客をくすぐってくる。長屋町のジェラート屋はちょっと高いが絶品のジェラート食べさせてくれる。ともに、Uターン・Ｉターンによる移住者である。了仙寺の立ち食い寿司は、サミットの懇親会で美味いすしを握ってくれた。若手の育成を目的とした寿司屋である。女性のスタッフは、確か群馬から勉強に来ているとのこと。中原町のスナックのＩターンのマスター・ママの対応も良かった。

新しいまちのプレイヤーが増え、街なかが歩きやすい環境になり、店舗を外に開き、食べ歩きができ、温泉地としての魅力が加われば、歴史的資産を豊富に有している下田の街なか観光もぐっと盛り上がってくるのではないか。そんなことを期待してやまない。

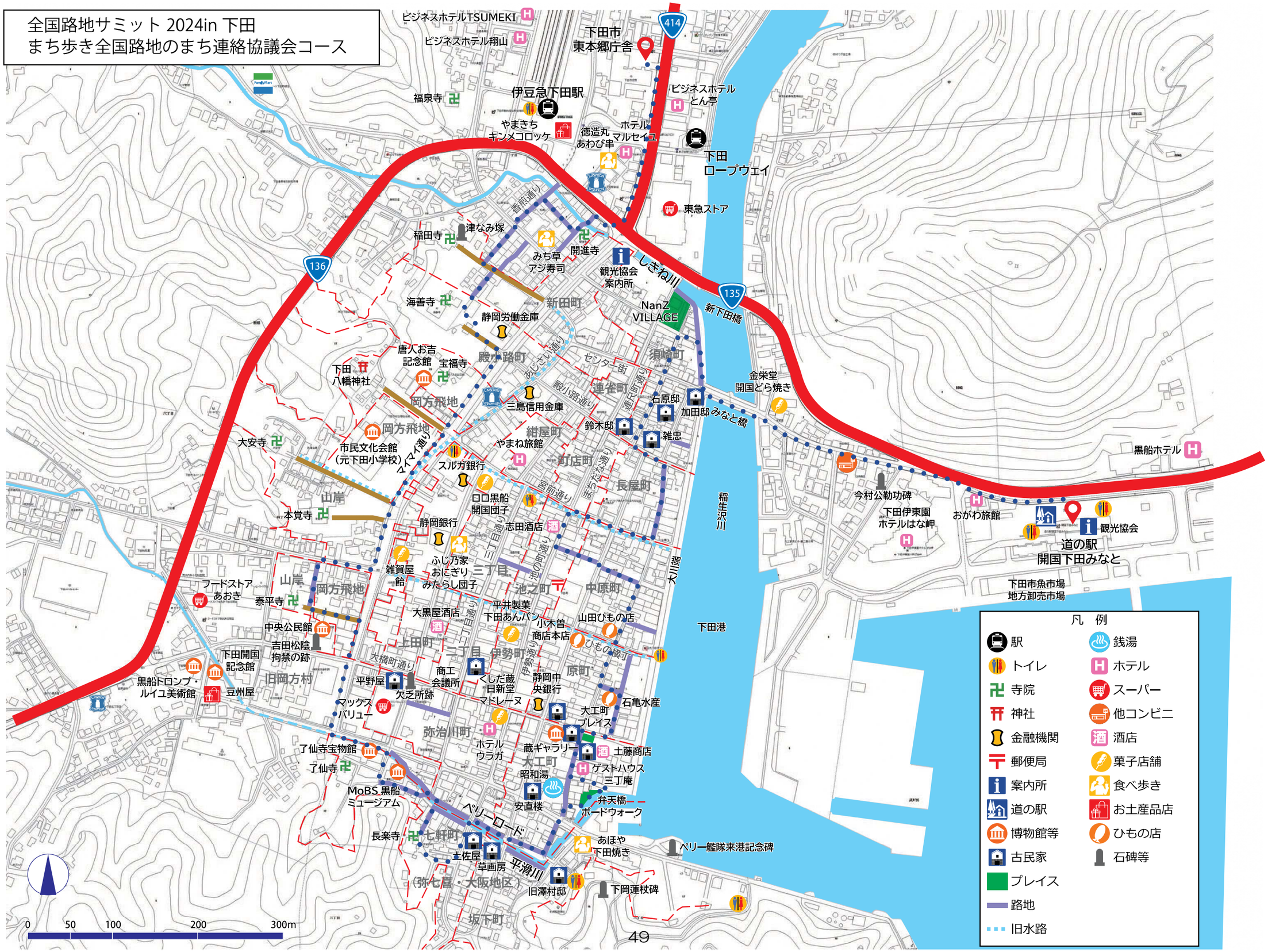
焼き鳥割烹　榮

ジェラート GELATO

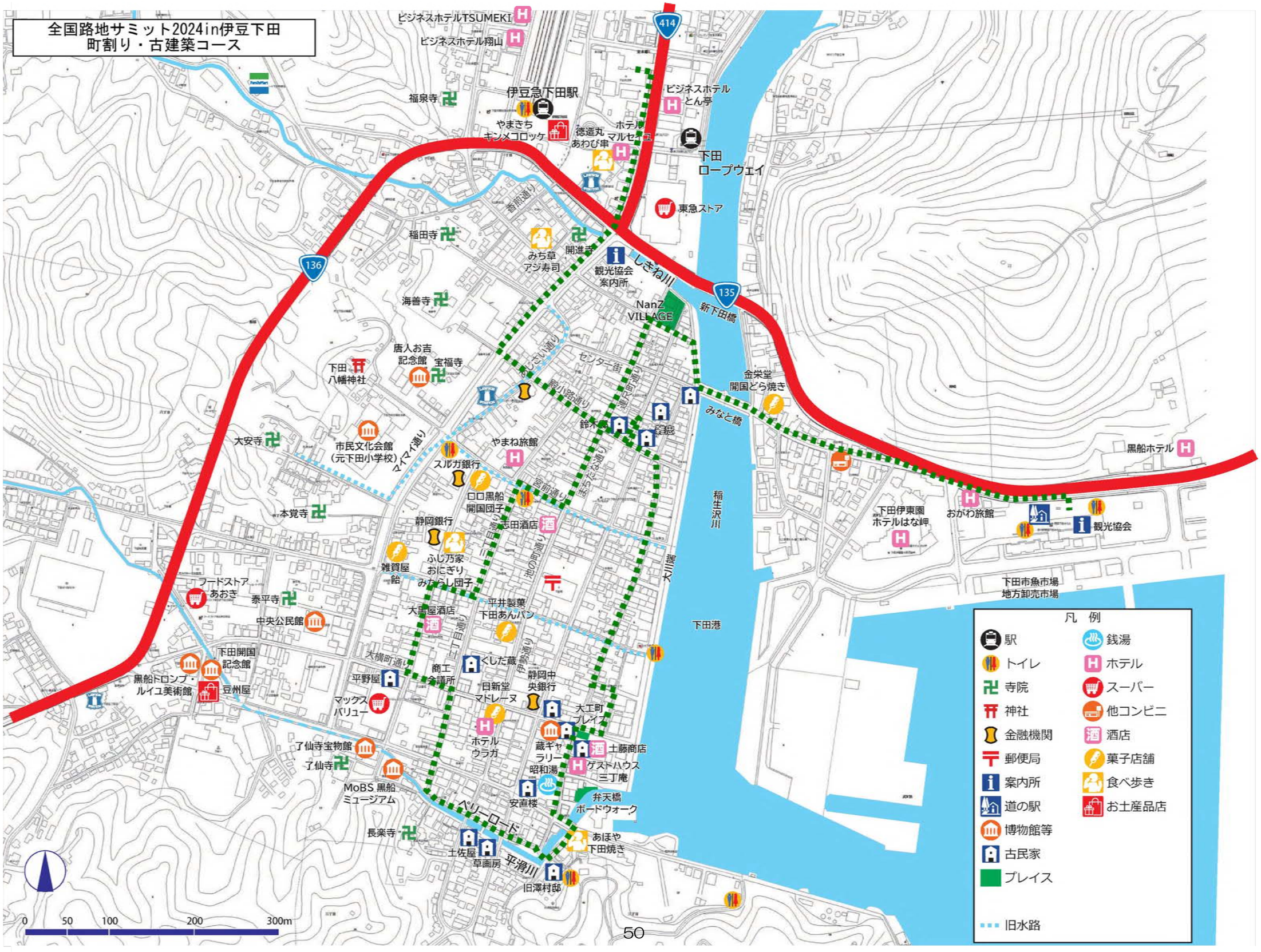
寿しらぼ三〇二

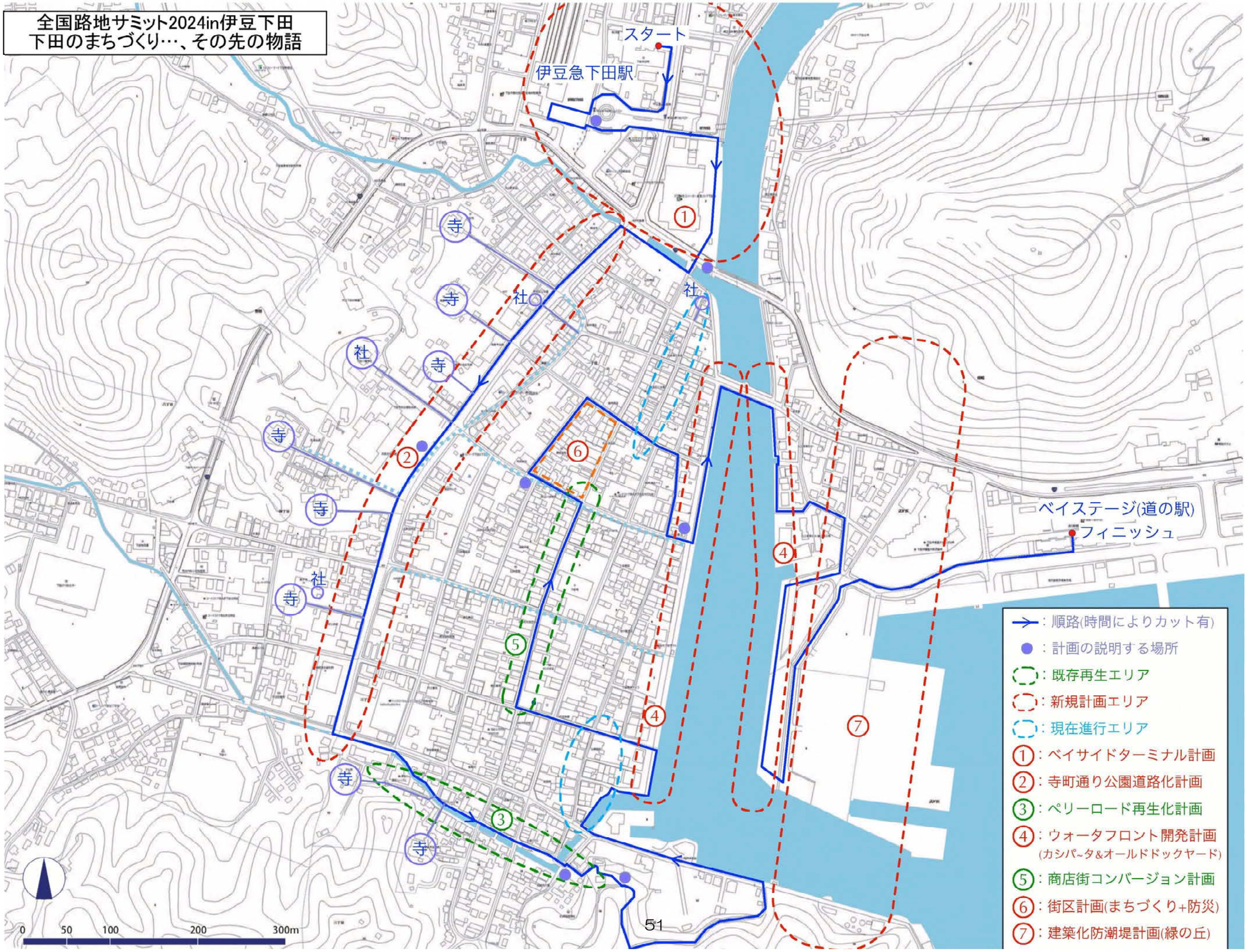
OCEANS

全国路地サミット 2024in 下田
まち歩き全国路地のまち連絡協議会コース



全国路地サミット2024in伊豆下田
町割り・古建築コース




全国路地サミット2024in伊豆下田
下田のまちづくり…、その先の物語
スタート
伊豆急下田駅
ベイステージ(道の駅)
フィニッシュ
寺
社
①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
：順路(時間によりカット有)
：計画の説明する場所
：既存再生エリア
：新規計画エリア
：現在進行エリア
①：ベイサイドターミナル計画
②：寺町通り公園道路化計画
③：ペリーロード再生化計画
④：ウォータフロント開発計画
(カシパ~タ&オールドドックヤード)
⑤：商店街コンバージョン計画
⑥：街区計画(まちづくり+防災)
⑦：建築化防潮堤計画(緑の丘)
0
50
100
200
300m

下田開港170周年記念

全国路地サミット2024 in伊豆下田

「元祖開港都市下田～下田の資産を活かす新たな開港　閉じているものを開こう」

令和6年11月16日(土)15時00分　道の駅開国下田みなと
第2部　トークセッション

1　開会挨拶

2　全国路地のまち連絡協議会の紹介

3　下田市ガイダンス

4　クロストーク
「下田の路地・資産を活かしたまちづくり」

高橋 美江
高橋デザイン室主宰
- 絵地図師・散歩屋
- NHKカルチャー講座でまち歩き講座講師
- 全国250ヶ所以上で絵地図を制作

野内 隆裕
路地連新潟会長
- 新潟市のまち歩きのカリスマ、ブラタモリ新潟編出演、坂口安吾賞受賞

野田 明宏
住まい・まちづくりデザインワークス
一級建築士事務所
- 一級建築士、ヘリテージマネージャー、防災士
- 地域の資産を継承した建築や、東日本大震災など被災地の復興にも取り組む

宝田 麻理子
下田市景観まちづくり審議会
作業部会委員
- 下田市景観まちづくり審議会作業部会委員
- 横浜国立大学大学院工学府建築コース修士課程前期修了
- 下田写真部メンバー

松木 正一郎
下田市長
- 静岡県庁で景観まちづくり課長、下田土木事務所長、賀茂地域副局長兼賀茂危機管理監などを歴任
- 2018年全国路地サミットin伊豆松崎でパネリスト

5　次回路地サミット開催地案内(東京都八王子市)

6　閉会挨拶

主催　全国路地サミットin伊豆下田実行委員会(事務局:下田市役所企画課)
共催　全国路地のまち連絡協議会(路地協)　後援　下田市
問い合わせ　下田市企画課　TEL 0558-22-2212

メモ欄

世界と日本を繋ぐ
伊豆石産業史の壮大な物語
～動画試験公開中～

見学しづらい石切場遺跡、漠然とした首都圏と伊豆の関係性、広域に広がった関連遺産群

２社にご協力いただいた３Ｄ映像を利用して伊豆石産業史を伝える動画を制作しました

株式会社 補修技術設計
Infrastructure Renewal Engineering Co.,Ltd.

日本語動画（7分）

【伊豆石】石切場遺跡と伊豆石産業史～３D撮影動画とともに解説～伊豆半島と日本史

STUDIO DUCKBILL

English Movie【限定公開中】（5分）

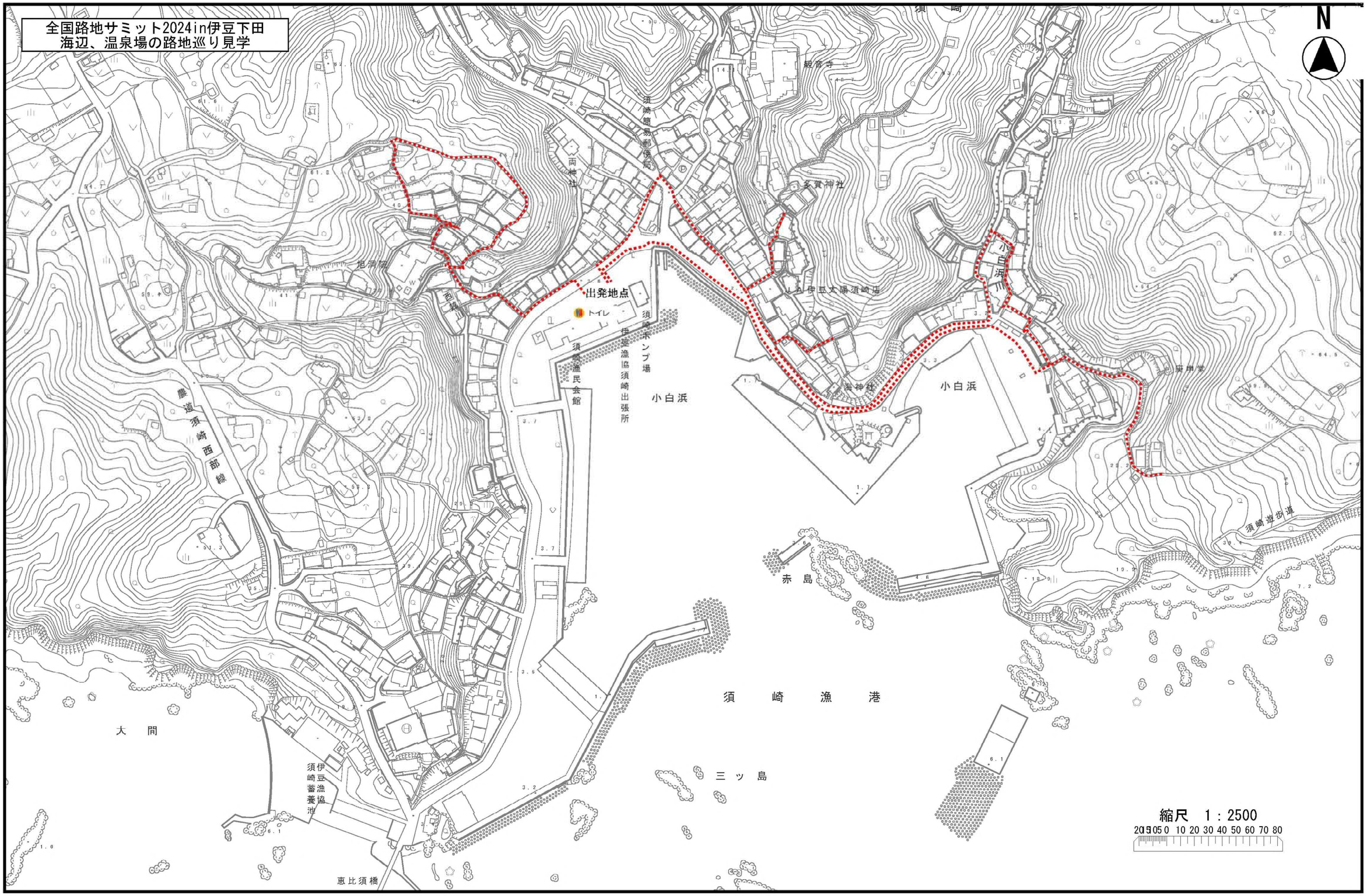
The stone industry that created Edo and Tokyo (The story of Izu Stone that came from across the sea)

【映像撮影】
スタジオダックビル合同会社　STUDIO DUCKBILL LLC
本社：神奈川県横浜市西区北幸１丁目１１番１号
https://www.studioduckbill.jp

株式会社補修技術設計
〒134-0088　東京都江戸川区西葛西 6-24-8 尚伸ビル5F
https://www.ire-c.com

【学術研究・解説文】
一般社団法人 伊豆石文化探究会
事務局：静岡県沼津市本田町５番１７号
https://www.izustone.or.jp

伊豆石文化探究会
IZU STONE CULTURE


全国路地サミット2024in伊豆下田
海辺、温泉場の路地巡り見学
N
須崎
観音寺
須崎簡易郵便局
両神社
多賀神社
旭洞窟
西堤
出発地点
トイレ
須崎漁民会館
伊豆漁協須崎出張所
須崎ポンプ場
小白浜
JA伊豆太陽須崎店
小白浜川
海神社
小白浜
廣神堂
農道須崎西部線
須崎遊歩道
赤島
須崎漁港
大間
三ッ島
伊豆漁協須崎蓄養池
恵比須橋
縮尺 1：2500
20 15 10 5 0 10 20 30 40 50 60 70 80

日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2020年 9 月

静岡県下田市須崎地区の街路構造と居住者意識
―斜面地における高齢者居住に関する研究　その１―

正会員　○中林諒*　同　藤田歩**
同　井本佐保里***　同　山中新太郎****

斜面地　高齢者居住　居住者意識
バリアフリー　階段道路　地域居住

1. 研究の背景と目的

日本では近年高齢化と核家族化の進行により、高齢者の単身世帯や夫婦のみの世帯が増加している。一方で 60 歳以上の者のうち 93%（持家に居住する場合 96%）が、現在住んでいる地域に住み続ける予定と考えており [1]、地域ごとに高齢者の住み慣れた地域での生活を支援する施策が必要である。

一方で、バリアフリー化の実施率が低く、障壁の多い地方集落において居住し続ける高齢者の生活実態、また地域特有の障壁が高齢者の生活に与える影響については明らかになっていない。そこで本研究では、斜面地を含む地域の街路構造を把握すること、居住する高齢者の斜面地に対する意識を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

2.1 街路分類

対象地域の街路を 4 つに、住宅を 2 つに分類する（表1）。道路沿い住宅居住者と階段道路沿い居住者の行動や意識を比較することによって、宅地へのアクセスが生活に与える影響を考察する。

表１　街路分類と住宅分類

街路分類	主要道路	自家用車のすれ違いが可能な街路
	補助道路	自家用車の通行は可能であるが、すれ違いが難しい街路
	歩道	自家用車の通行が不可能な街路
	階段	段差のある街路
住宅分類	道路沿い住宅	自家用車の通行が可能な街路から宅地へのアクセスに、階段を経由しない住宅
	階段道路沿い住宅	自家用車の通行が可能な街路から宅地へのアクセスに、階段を経由する住宅

2.2 調査方法

対象地域に居住する高齢者へのアンケート調査により、斜面地に対する意識を問う。対象者は須崎に居住し、須崎で月に１度開催されるわらいの輪[注 1]の参加者とした。2019年10月7日に64部配布を行い、53部（回収率83%）回収した。

3. 研究対象地域概要

3.1 地域概要

研究対象地域は静岡県下田市須崎地区とする。下田市全体の人口は減少傾向であり、高齢化も進んでいる。須崎は漁業が盛んな地域である。

3.2 街路構造

地区内の海岸沿いの主要道路から、歩道・階段が多く分岐し、階段道路沿い住宅が多く存在する (図 1)。一方、内陸側は比較的新興住宅地であるため、道路沿い住宅が多い。地区の中は自家用車の通過する車道から、狭小街路が葉脈上に張り巡らされ、それらが斜面地内の居住地や農地へのアクセス路となる。狭小街路は住宅と歩行者の距離が近いため、互いに気配を感じやすく、挨拶も交わしやすい。

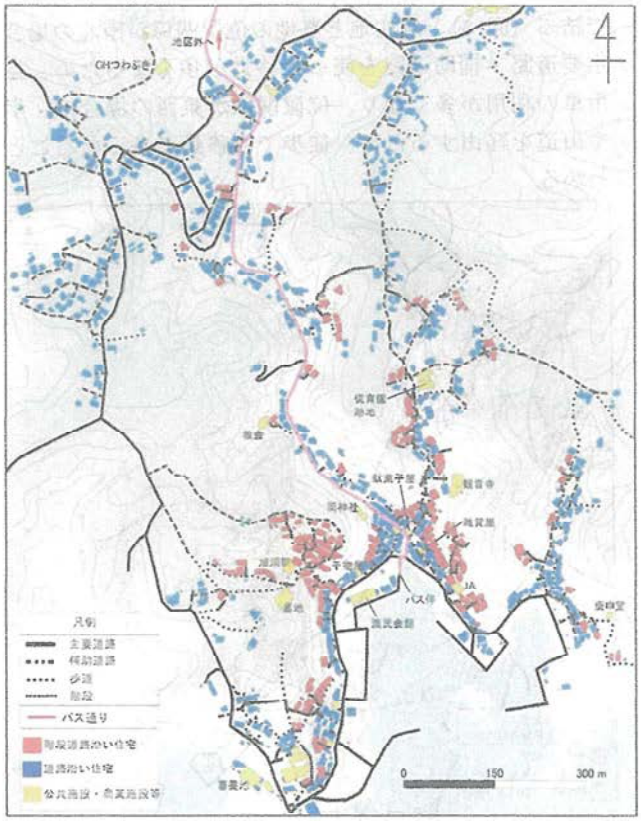


図１　地区内街路図及び住宅分布図

4. 須崎地区の居住者意識

4.1 基本属性

高齢者の居住の安定確保に関する法律において高齢者を 60 歳以上と定義するため、アンケート回答者 53 名のうち 50 代２名を除いた 51 名を対象とする。アンケート調査における被験者の基本属性を居住地別に図２～４に示す。

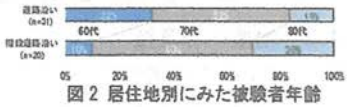


図２ 居住地別にみた被験者年齢

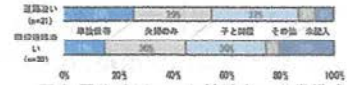


図３ 居住地別にみた被験者の世帯構成

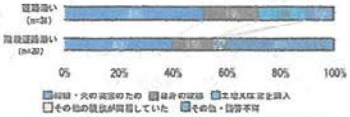


図４ 居住地別にみた居住開始要因

Street Structure and Consciousness of Residents in Suzaki,Shimoda City,Shizuoka Prefecture, Japan - The Study on the Elderly Living in Slope Area Part1-

*NAKABAYASHI Ryo, ** FUJITA Ayumi,
***IMOTO Saori, ****YAMANAKA Shintaro

須崎に住み始めた要因として、結婚又は自身の故郷であることが最も多い。一方、土地又は家を購入・転居と回答した人は5名と少なく、5名は道路沿い居住者である（図 4）。血縁なく須崎に居住する場合、主要道路・補助道路沿いの車付けが可能な場所に居住する傾向が見られる。職業は、専業主婦を含む無職が大半であり、時間的制約の少ない者が多い。また約半数の 26 名が農地を所有していた。

4.2 居住地と農地の立地関係

農地を所有する 26 名のうち、24 名は農地を居住地から離れた位置に所有する。農地までの移動手段として、自家用車を使用する場合については農地と居住地を赤線で、徒歩のみで移動する場合については農地と居住地を青線で結ぶ（図 5）。居住地と農地の位置関係が南北の場合は、主要道路・補助道路を使った移動が多くなるため、自家用車の利用が多くなり、位置関係が東西の場合は、歩道や山道を経由するため、徒歩での移動が多くなることがわかる。

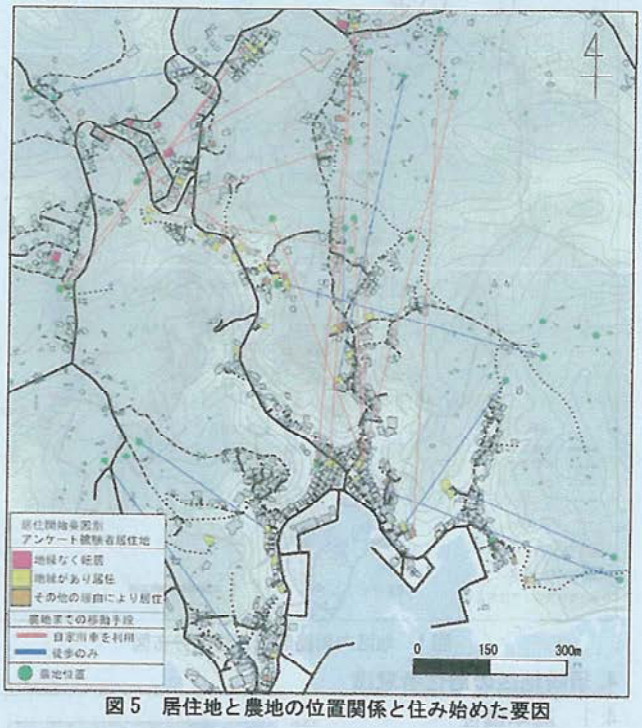


図 5　居住地と農地の位置関係と住み始めた要因

4.3 地域への意識

アンケート調査において、「日常的に必要だと感じるもの」「須崎の好きなところ」「斜面地について感じること」について、選択式の回答を得た。得られた回答を、道路沿い居住者と階段道路沿い居住者で比較を行う。「日常的に必要だと感じるもの」については、バスの本数の増加や道路の拡幅など、交通に関するものが最も多い。また階段道路沿い居住者は手すりや休憩できる場所などを選択する割合が比較的高い。一方、ベンチ・広場・お喋りできる涼しい場所などの余暇を充実させるものについては、道路沿い居住者の方が選択率が高い傾向があった（図 6）。

「好きなところ」については、階段道路沿い居住者の方が、海が見えるところなどの斜面地の特性を選択している割合が高い（図 7）。一方で、“住みやすい”を回答している割合は道路沿い居住者の方が 15 ポイント高く、居住地までの階段移動は住みやすさを低下させると言える。

また「斜面地について感じること」に対する回答では、階段道路沿い居住者の方が、眺めが良いなどの斜面地の良い特性を回答している割合が大幅に高い。一方で、がけ崩れの心配など斜面地の負の特性を選ぶ割合には、差が見られない、若しくは道路沿居住者の方がやや選択している割合が高い（図 8）。

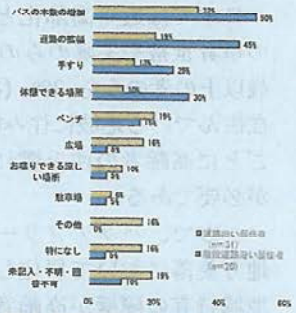
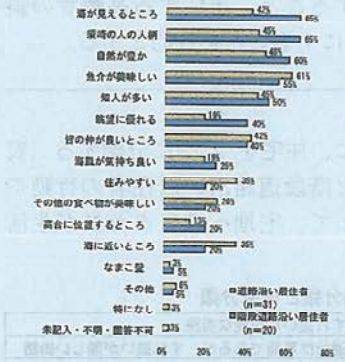


図 6 居住地別にみた日常的に必要だと感じるもの



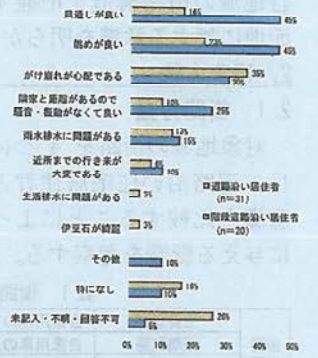


図 7（左図）居住地別の須崎の好きなところ
図 8（右図）居住地別の斜面地について感じること

5. まとめ

須崎地区の中では、海岸沿いに狭小街路と階段道路沿い住宅が集中し、内陸側には、主要道路・補助道路と道路沿い住宅が多く存在する。

また被験者の半数が地区内で農作業を行い、交通面では不便を感じていることがわかった。さらに道路沿居住者と階段道路沿居住者比較すると、階段道路沿居住者は斜面地居住について住みやすさは感じていないものの、斜面地特有の良さを実感していることが明らかとなった。

注釈

注 1) わらいの輪…漁民会館にて月に１度、健康講座やレクリエーション、防災食づくりなど、様々な活動が行われる会。3 年程前に地域住民により立ち上げられ、会員は現在須崎居住者 100 名程であり、60 歳以上の女性が多い。

参考文献

1) 平成 30 年版高齢社会白書，内閣府 HP，https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-018/html/zenbun/index.html

*日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程
**株式会社市浦ハウジング＆プランニング
***日本大学理工学部 助教 博士（工学）
****日本大学理工学部 教授 博士（工学）

*Graduate School of Science and Technology, Nihon Univ.
**Ichiura Housing & Planning Associates Co.,Ltd
***Assist. Prof., College of Science and Technology, Nihon Univ., Dr. Eng.
****Prof., College of Science and Technology, Nihon Univ., Dr. Eng.

日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2020 年 9 月

静岡県下田市須崎地区における高齢者の外出行動
—斜面地における高齢者居住に関する研究　その２—

正会員　○藤田歩*　　同　許絢香**
同　　井本佐保里***　同　山中新太郎****

斜面地　　高齢者居住　　外出行動
バリアフリー　　ＧＰＳ　　地域居住

1. 研究の背景と目的

高齢化の進む日本において、バリアフリー化の実施率が低く、障壁の多い地方集落で居住し続ける高齢者の生活実態、また地域特有の障壁が高齢者の生活に与える影響については明らかになっていない。そこで本研究では、斜面地を含む地域に居住する高齢者の日常的な外出行動を把握し、階段道路沿い居住者と道路沿い居住者で比較を行う。これらによって斜面地の特性が高齢者の生活行動に与える影響を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

前報におけるアンケート調査被験者 51 名のうち、26(31)名を対象に行動調査を行った。行動調査には、GPS Route Logger Dongle (model:GT-730 FL-S) (以下 GPS ロガーと表記) を使用する。GPS ロガーは衛星から受信した位置情報を、特定の間隔で本体内に記録していくものであるが、本研究では 5 秒に 1 度の記録とした。サイズは、7cm×3cm×1.5cm であり、1 週間外出時のみ電源を入れ、持ち歩いてもらう。調査概要を表 1 に示す。

表 1　調査概要

	第1回	第2回	第3回
被験者数	11名	11名	9名
被験者詳細	第2回被験者は、第1回同一被験者を5名含む		
調査期間	8/5～8/11	10/8～10/14	10/17～10/23
期間詳細	新盆供養日を1日含む	台風直撃日を1日含む	-
日の出/入平均時刻	4:57/18:41	5:44/17:16	5:52/17:05
調査方法	①ＧＰＳロガーを外出時のみ持ち歩き、5秒に1度居場所を記録。 ②所定用紙に外出時の目的地(又は目的)を記入。		

3. 須崎地区内での生活行動の把握

3.1　地区内での立ち寄り場所

第 1 回から第 3 回の調査で挙げられた地区内の立ち寄り場所を表 2 に示す。農地、漁民会館、散歩、知人宅（新盆供養を含む）が立ち寄り先として多く挙げられ、被験者全員が地区内に 1 つ以上の立ち寄り場所を持っていた。

また新盆供養を含む知人宅への立ち寄りや農地、近隣清掃などは、階段道路沿い居住者の方が多く、地区内での交友や活動は、道路沿い居住者よりも、階段道路沿い居住者の方が多いと言える。一方で、散歩やウォーキングを行う割合は道路沿い居住者の方が多く、階段道路沿い居住者は少ない。

表 2　地区内での立ち寄り場所・回数(人数)

目的地	農地	散歩など	漁民会館	新盆供養	知人宅	商業施設	寺院教会	仕事関係	近隣清掃	その他
【階段道路沿い居住者】n=17	32(10)	9(2)	14(8)	24(4)	24(12)	9(4)	8(6)	0	4(4)	20(-)
【道路沿い居住者】n=13	10(2)	27(5)	17(9)	5(1)	4(2)	9(2)	5(4)	13(2)	1(1)	20(-)

3.2　外出時間帯

31 名の 7 日間の外出行動のうち、1 日を通してデータを得られた 183（日・人）の外出行動を時間帯別にみる。階段道路沿い居住者の外出時間帯を、地区内・地区外別に図 1 に示す。また道路沿い居住者の外出時間帯を、地区内・地区外別に図 2 に示す。

階段道路沿い居住者と道路沿い居住者どちらも 10～11 時台と、14～15 時台の外出人数が最も多くなる。一方、12～13 時台の値は比較的低くなり、昼食時に 1 度帰宅する場合が多いことが伺える。

また地区内外出と地区外外出を比較する。地区内での外出は、階段道路沿い居住者、道路沿い居住者どちらも、5～6 時台から人数が増加していくが、地区外への外出のほとんどが 8 時以降に行われる。これは、主な地区外への外出目的が、大規模な店舗での購買であるためである。

また地区内での外出を階段道路沿い居住者と道路沿い居住者で比較する。階段道路沿い居住者は 4～20 時台で地区内での外出があることに対し、道路沿い居住者は、6～19 時台がほとんどであり、地区内での外出は、階段道路沿い居住者の方が幅広い時間帯で行われる傾向が見られた。

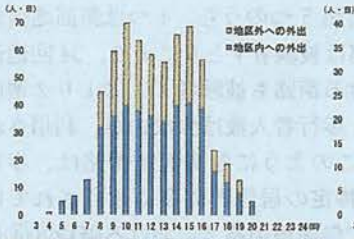


図 1 階段道路沿い居住者の外出時間帯

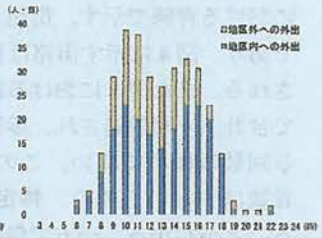


図 2 道路沿い居住者の外出時間帯

3.3　各街路の歩行人数

徒歩での通行人数により街路を分類し、図 3 に示す。地区内では自家用車の通行が可能な街路では自家用車で通行し、通行不可能な街路から徒歩移動に切り替える被験者が多い。一方で、徒歩での通行人数が比較的多い街路として、①地区内を南北を移動するバス通り、②漁民会館・バス停周辺の立ち寄り場所が多い街路があげられる。階段道路沿い住居が並ぶ海岸沿いに歩行経路が集中し、道路沿い住宅の多い内陸側には通行人数の多い歩行経路は少ない。これより、道路沿い居住者は近所でも徒歩での外出が少ないということがわかる。

Going Out Behavior of the Elderly in Suzaki,Shimoda City,Shizuoka Prefecture, Japan - The Study on the Elderly Living in Slope Area Part2-

*FUJITA Ayumi, **Hyunhwa Huh,
***IMOTO Saori, ****YAMANAKA Shintaro

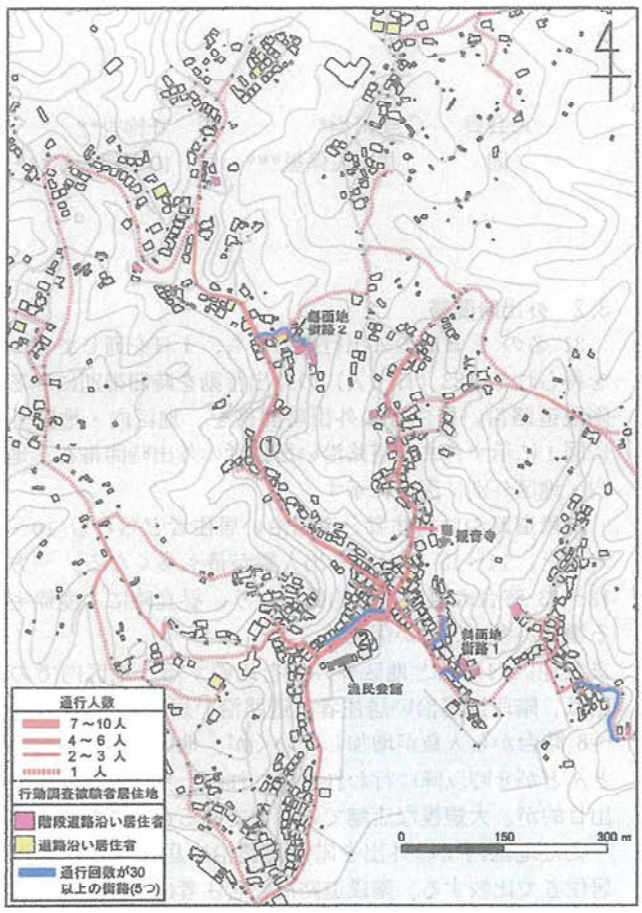


図3　被験者居住地と徒歩移動人数による街路分類

3.5　各街路の歩行回数

3期間の徒歩での通行回数が30回以上の街路5つを図3における青線で示す。街路5つのうち、4つは斜面地街路であり、図4に示す街路は被験者VとWにより、34回通過される。また図5における街路も被験者XYZにより2週間で合計104回通過され、歩行者人数は少ないが、利用される回数は極めて高い。このように各斜面地街路は、歩行者数は少ないものの、特定の居住者に多く通行されていることがわかる。一方で斜面地街路2における階段③④には、手すりの整備が行われていない。

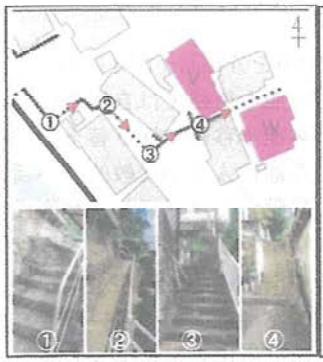


図4 斜面地街路1

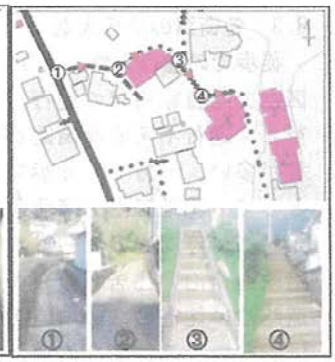


図5　斜面地街路2

3.6　外出頻度

1日の平均外出回数を階段道路沿い居住者と道路沿い居住者で比較を行う。階段道路沿い居住者は道路沿い居住者と比較して、年齢は高く、身体に腰痛や膝の痛みを持つと回答した人が多いが、外出頻度（1日の平均外出回数）に差は見られない（表3）。斜面地（階段を経由する）という障壁は、自立した高齢者の外出頻度を減らしていない。また身体に不具合があると外出頻度は減少する傾向があるが、階段道路沿い居住者の方が、比較的減少率が低い傾向が見られた（図6）。

表3　居住地別平均外出回数

居住地		階段道路沿い	道路沿い
被験者数		n=17	n=13
平均外出回数(回/日)		1.65回	1.61回
平均年齢		76.0歳	73.2歳
身体の不具合	腰痛	24%	23%
	膝の痛み	41%	38%
	膝以外の足の痛み	29%	8%
	心肺の疾患	6%	0%

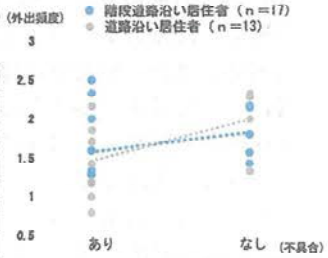


図6 身体の不具合の有無と外出頻度

4. まとめ

階段道路沿い居住者と道路沿い居住者の外出行動の比較を通じて、以下のことが明らかになった。

①階段道路沿い居住者と道路沿い居住者ともに、地区内に必ず外出目的地（ウォーキング・農地を含む）を1つ以上持つ。また昼食時には1度帰宅する場合が多い。

②道路沿い居住者と比較し、階段道路沿い居住者は農作業や、新盆供養を含む知人宅への訪問率が高く、地区内での外出が多い。また斜面地居住者は地区内での外出は早朝や日没後を含み、広い時間帯で行う。

③地区内では、バス通りや立ち寄り場所が集中する街路が複数人の被験者に歩かれる。一方で、斜面地街路は特定の被験者による歩行回数が多くなる。

④身体的に自立した高齢者の場合、道路沿い居住者と比較し、階段道路沿い居住者の外出頻度が下がることはない。さらに身体の不具合が生じた際、階段道路沿い居住者の方が外出頻度の低下率が低い。

5. 総括

今回の調査で、斜面地という障壁が階段道路沿い居住者の外出を妨げるということは見られなかった。こうした傾向には、階段道路沿い居住者が、斜面地内での近所までの行き来が大変であるとは感じていないことや、住宅と歩行者の距離が近い狭小街路が斜面地内に多いこと、地区内に外出目的場所を持つことなどが影響しているのではないかと考えられる。またこうした地区内での外出頻度の高さが地域への愛着に結び付いていると考えることもできる。

謝辞

本研究にご協力いただいた須崎地区協議会の皆様、須崎わらいの輪の会員の皆様に心より感謝申し上げます。

*株式会社市浦ハウジング＆プランニング
**日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程
***日本大学理工学部 助教 博士（工学）
****日本大学理工学部 教授 博士（工学）

*Ichiura Housing & Planning Associates Co.,Ltd
** Graduate School of Science and Technology. Nihon Univ.
*** Assist. Prof., College of Science and Technology,Nihon Univ., Dr. Eng.
**** Prof., College of Science and Technology, Nihon Univ., Dr. Eng.

蓮台寺の宝！

国の重要文化財 **大日如来坐像（蓮台寺のご本尊）**

幻の蓮台寺のご本尊と言われている大日如来坐像は、住民から大日さんと呼ばれ慕われています。800年以上の間ほぼ完全な姿で守られてきたのは、住民の強い信仰心があったからです。大日如来坐像は平安時代後期の特徴を有し鎌倉時代初期の作とされ、国の重要文化財に指定されています。

大日如来坐像をかくまったお寺

湯谷山広台寺

山号である「湯谷山」に温泉とのつながりを想像します。明治時代、多くの仏像などが廃棄された廃仏毀釈がおきたとき、天神神社に安置されていた大日如来坐像をかくまっていました。

吉田松陰の隠れ家

県指定史跡 **吉田松陰寓寄処**

幕末、黒船に乗って海外渡航をしようとした吉田松陰。皮膚病の湯治のために上の湯権現そばの共同湯に入浴していたところ、医師である村山行馬郎に出会い、村山邸（吉田松陰寓寄処）にしばらく身を寄せることになりました。村山邸は当時のままの姿で残されていて、実際に松陰が隠れていた部屋などを見学することができます。

文化人に愛された温泉場

河内温泉・蓮台寺温泉

蓮台寺温泉は明治初期の温泉番付に記載され、幕末から明治にかけて著名人が訪れる下田の奥座敷として認知されていました。当時は多くの温泉宿が湯の華小径沿いに並んでいました。山本周五郎、大槻文彦、幸田露伴、与謝野晶子、浜口陽三等多くの文化人が訪れています。

蓮台寺地区の由来となった

幻の蓮台寺（山号：温泉山）

蓮台寺という地名は、鎌倉時代の承久年中（1219～1221年）に廃寺となった幻の寺「蓮台寺」が起源になったとされています。「温泉山」という山号から、古くから温泉の地であったことがうかがわれます。

温泉のある暮らし

共同湯

稲生沢には共同湯と呼ばれる地域のお風呂が点在しています。江戸時代には混浴だったそうですが、今は男女に分かれています。共同湯は昔も今も近所の人しか利用できません。この地域では源泉を家のお風呂に引いている方も多く、温泉が暮らしの一部になっているようです。

蓮台寺温泉には、奈良時代に人助けをしながら仏教を広めた行基菩薩の伝説が残っています。

行基は諸国行脚の道すがら、天城を超え、険しい山道を歩く途中、しばしまどろみ夢を見ました。夢の中に天狗が現われて「ここから南に下ると、葦の茂みに温泉が湧くところがある。これを開いて庶民を救いなさい…」と言いました。行基はこれに従い、お告げの場所を錫杖の先で突くと、温泉が湧き出てきたそうです。このときから地区内数か所で温泉が湧出するようになったと伝えられています。

天馬駒神社

地域では安産の神様として、下半身の冷え性に大変ご利益があると伝えられています。温泉地らしい謂われです。階段を上がった小高い場所にある境内からは、稲生沢ののどかな風景を見渡すことができます。

お湯の神様

上の湯権現・下の湯権現

蓮台寺地区に湯を授けてくれた神様を、上の湯権現、下の湯権現としてそれぞれ社に祀っています。毎年1月11日に湯権現祭りが行われ、湯を授けてくれた湯権現と先人の努力に対して感謝の念を捧げます。

大日の森の

天神神社

大日如来坐像が安置される天神神社は、小高い山の上にあります。江戸時代には大日如来が祀られている場所として、大日の森と呼ばれていました。天神を祭神とする神社ですが、大日如来をずっと見守ってきました。毎年10月の第２土曜・日曜には秋季例祭が開催されます。

湯も温かければ、まちも人もあたたかい。地域への情熱もひとしお…そんな土地柄です。

地域の人々から尊敬された

正直者の松枝翁

幕末、明治、大正、昭和の４つの時代を生きた松枝翁は、地域のために道の修理や石垣づくりなど様々な事を無報酬で行い、大変尊敬されました。その善行をたたえた石碑が天神公園にあります。

心温まる物語

現代の花さか爺さん

40年前、蓮台寺に住むおじいさんが、花好きな奥さんのためにしだれ桃の種を庭先にまきました。その庭が現在の「しだれ桃の里」。おじいさんが亡くなった後も、住民が引き継いで育て守っています。

蓮台寺の桃源郷

しだれ桃の里祭り

しだれ桃開花時期の３月下旬から４月上旬に開催されるお祭り。約300本のしだれ桃と、木の下に植えられた春の花が一斉に開花します。地場産品の売店も並びます。

伝統花火の復活

河内の花火

伝統花火を復活させたい思いから、昭和20年代に伝統製法に基づく花火づくりが始まりました。毎年10月中旬頃開催の河内の手筒花火大会で使用される花火は全て手作りされています。

伊豆温泉・蓮台寺温泉 郷巡りマップ

あなたが歩くのにちょうどいい…

稲生沢で楽しむ幸節めぐり

いろいろな花が咲き誇る春の花が一斉に咲き、あたり一面が春らしい雰囲気に包まれる時期や、温かな手湯や足湯に浸かりたい冬の時期は稲生沢生沢で過ごしてみたいかな？　春と秋・冬におススメのコースを紹介します。

お問い合わせ
下田市役所 建設課都市住宅係
TEL：0558-22-2219　FAX：0558-27-1007
Mail：kensetsu@city.shimoda.lg.jp

湯の華／ぬ

立野橋と蓮台寺温泉場の遠望（土屋氏所蔵絵葉書集より）

稲生沢地域の集落、蓮台寺・河内・立野は、歴史や文化が感じられるマップが残っていたり、のんびりとぶらぶら散歩するのにぴったりの地域です。

物資の中継地として栄えた立野

江戸時代は木炭や薪を運び出すのに船の運搬が便利でした。立野の中乙瀬は、稲生沢川上流の山間部と下田港を結ぶ中継地として絶好の場所にあったので、小さな商店街が形成され、とても賑わいました。現在、なまこ壁の蔵や川沿いの石垣など、当時の名残がみられます。

河内温泉・蓮台寺温泉

江戸時代、全国的に温泉浴場が爆発的に流行しました。明治初期の温泉郷巡りマップ

泉番付には河内温泉と蓮台寺温泉の名を見つけることができます。下田に入港した船の乗組員や漁師、蓮台寺鉱山の労働者たちも、仕事が終わると温泉場に来て疲れた体を癒しました。

現在、かつてほどの賑わいは見られませんが、温泉と地域の歴史や文化が、このまちならではの人々を支えてきたことは言うまでもありません。

まちのあちこちで温泉が流れ、まち壁の古い民家や石垣、社寺など、歴史・文化の痕跡が残されています。地域の歴史を紐解きながら、ぶらぶら気ままに歩いて見てはいかがでしょうか。

稲生沢の今と昔を比べよう！

下の3つの写真は大正～昭和に蓮台寺で撮影されたもの。これらの場所は現在も残っています。どこにあるのか探して写真を撮ってみましょう。吉田松陰寓寄処で、撮った写真の枚数に応じてオリジナルポストカードが貰えます！

1

2

3

散策マップ

稲生沢をみる、しる、ふれる。

お散歩するのにちょうどいい！

河内温泉・蓮台寺温泉

稲生沢を歩いていると、石垣と石畳の路地、バシャバシャと音を立てて湯が流れ落ちる石の器、古いなまこ壁の家、古くから続く温泉宿など、どこか懐かしい風情ある景色に出会う事ができる。

稲生沢散策おススメコース

天神社コース	時間:15分(約350m)	吉田松陰寓寄処 ●(約130m)●	天神神社 ●(約70m)●	子育て地蔵	気軽にお散歩を楽しめるコース。
湯の華小径コース	時間:20分(約420m)	吉田松陰寓寄処 ●(約20m)●	上の湯権現 ●(約400m)●	下の湯権現	情緒あふれる風景が残ってます。
(たっぷり)歴史探訪コース	時間:60分(約1,600m)	中之瀬 ●(約700m)●	湯の華小径 ●(約700m)●	天神神社	たくさん歩いたら日帰り温泉へ!

オンラインで散策を楽しむ　より詳しい情報をWEB上で公開しています。右のQRコードをチェック! GPS機能でマップ上に自分の位置が示されます。明治・大正時代の写真が載っているので、現在の風景との比較を楽しめます。

稲生沢の温泉紹介 ～河内温泉・蓮台寺温泉～

金谷旅館
大正4年に建てられた『千人風呂』は、浴槽から壁や天井まで全てがヒキ造りで圧巻。
日帰り温泉 9～22時まで

清流荘
あこがれの高級旅館。1979年、サミットで来日したカーター米国大統領が立ち寄り、一家で昼食をとったことでも有名。

クアハウス石橋旅館
豪壮な唐破風造りの玄関とロビーの八十八面格天井の漆喰塗り造りの花びらお必見。
日帰り温泉 10～21時まで

大地の彩花月亭
数寄屋造りの純和風の旅館。300坪もの広大で優美な日本庭園でくつろげる。
日帰り温泉 14～18時まで

旅館さくらや
地下から湧き上がる源泉そのものに浸かることができる。家庭的な雰囲気の旅館でご主人の笑顔と人柄に癒される。

お宿 星めぐり
すてきな若夫婦が営むお宿。地元の新鮮な食材を使用した海の幸・山の幸の豊富な創作料理はとても美味しい。

稲生沢むかしばなし

かつて稲生沢にあった旅館や鉄道と、昔からの風習を紹介します。

新湯旅館
戦後、銅版画家である浜口陽三が2年程滞在した。浜口は滞在中に、旅館の庭先で山羊を育て、チーズを作ってふるまったエピソードがある。

掛塚屋
「湯の村やゆめばかりなる春の雪」。これは小説家幸田露伴が掛塚屋で作った俳句。なんともやわらかく、蓮台寺らしさにあふれている。

蓮台寺荘
小説家の山本周五郎がたびたび滞在して執筆活動に当たるなど、人気のあった数寄屋造りの純和風旅館でした。耐震化がうまく進まず閉館した。

南豆馬車鉄道
昔、蓮台寺鉱山の鉱石を、馬車鉄道で下田港まで運んだ。地元の人は「馬鉄」「トロ馬車」と呼んだ。廃線後、路線跡に沿って、温泉のパイプラインが引かれ、下田港の方まで伸びている。

中之瀬
江戸時代、山から木を運ぶのに水運を利用していた。中之瀬には船着き場があり、山間部と下田港を結ぶ中継地として発展した。大正時代には銀行や会社、様々な商店が軒を連ね、とてもにぎわっていた。伊豆石となまこ壁の建物、川沿いの石垣など、当時の雰囲気を醸し出している。

立野には正月に餅を食べない風習がある。
昔、立野の氏神様は、元日の朝お雑煮を召し上がり、餅がのどにつかえて亡くなられた。それ以来、立野の人達はお正月の餅を食べない事になった。実際、「そんな馬鹿な事はない。」と言って餅を食べた者が火のたたりにあったので、今でも立野の人達はこのきまりを守っている。

路地巡り魅力探る

下田で全国サミット　専門家、愛好者ら50人

路地の町下田を象徴するペリーロードの散策を楽しむ参加者＝下田市三丁目

美しい路地空間とコミュニティーの保全、再生、創造を考える「2024年度第19回全国路地サミット・イン伊豆下田」（実行委員会主催）が16日、下田市で開幕した。全国からまちづくりの専門家や路地巡り愛好者ら約50人が参加。初日は下田のまち歩き、路地巡りを楽しみ、路地の町下田の魅力について意見交換した。17日まで。

（下田支社　晴山文人）

伊豆石、なまこ壁…再認識

路地空間を次世代に継承するための研究と実践活動に取り組む全国路地のまち連絡協議会が主体となり、03年度から毎年開いている。伊豆地区では18年度の松崎町に続く開催となった。

初日に行われたまち歩きは「下田のまちづくり…、その先の物語」「町割り・古建築」「旧町内路地巡り」の3コースで実施。今サミットの実行委員長で市景観まちづくり審議会長の安藤泰さんら専門家を道先案内人に、江戸時代には海の関所である御番所、奉行所が置かれ、開国の町として栄えた下田の歴史、文化が息づく旧町などを散策した。参加者は伊豆石やなまこ壁の家、歴史的建造物が点在する古い街並み、住民の生活感が漂う路地を巡り、下田の魅力を再認識した。

須崎の信田昌宏さん(63)・之恵さん(65)夫婦は「移住して7年、知っているようで知らなかった下田のことをいろいろ学ぶことができた」と話した。

道の駅・開国下田みなとで開かれたトークセッションでは松木正一郎市長、同協議会関係者らパネリスト5人と参加者が「下田の資産を生かす新たな開港、閉じているものを開こう」をテーマに語り合った。

伊豆新聞

伊豆新聞　下田支社
下田市東本郷2-9-15
〒415-0035
電話 0558(22)2555
FAX 0558(22)2556
松崎支局
電話 0558(42)3225
FAX 0558(43)0483
伊豆新聞本社
〒414-0054
伊東市鎌田1290-6
電話 0557(36)1234
伊豆新聞デジタル
https://digital.izu-np.co.jp

KeePer PRO SHOP
キーパープロショップ
KEEPER 取扱施工店
車両の点検・整備・修理
車検サービスを始めました！
自動車整備士・検査員募集！
地域に愛され50年
㈲正木石油商会
ENEOS セルフ24 河津SS
賀茂郡河津町峰332-1
☎0558-32-1374

17日は「海辺、温泉場の路地巡り」として、駒沢女子大准教授・小川弾さんの案内で海辺と温泉場の路地を巡る。

政ただす

静岡新聞
6.11.17

地域課題切り込む

臨む「高校生議会」が16日、市や市民生活の解決策を市当局と

富士宮東、北、西、富岳館、星陵、富士宮高等専修学校の代表者が各13分の持ち時間で市政をただした。バス通学の補助金制度創出といった高校生活に直結するテーマや、防災訓練内容の見直しなど地域の実情にも触れた。

富士宮西高2年の山田璃子さんは高校生主催のイベントを商店街で開催することを提案。杉浦真企画部長から「若者の地域に対する関心を高める機会になる。実現に向け検討したい」との姿勢を引き出した。富岳館高2年の望月宗さんは災害時に同市への来訪者が速やかに避難できるか不安だと指摘した。和田圭司危機管理監から危険エリアを示すマップの設置が考えられるとの回答を得た。

（富士宮支局・国本啓至郎）

「路地サミット」開幕

下田 散策通じあり方提言

古くからの街並みが中心市街地周辺に残る下田市で16日、「全国路地サミット」（実行委主催）が始まった。散策や討論会を通じて都市のあり方を提言し合う。初日は「下田まち歩き」と題し、黒船のペリー提督ゆかりの「ペリーロード」などを参加者約50人が巡った。17日まで。

塩見さん（左）の解説を聞きながら中心部を散策する参加者＝下田市

まち歩きは趣旨の異なる3コースが用意され、「町割り・古建築コース」では「しずおか民家活用推進協会」副理事長で1級建築士の塩見寛さん(72)が案内役を務めた。「旧町」と呼ばれる中心部を歩き、塩見さんは「戦国時代後期に豊臣秀吉の部下によって町割りが決められてから、ほぼそのままの形」と解説。路地には今も昔ながらのなまこ壁が残り、ペリー提督も当時称賛したとの逸話を紹介した。

討論会には「全国路地のまち連絡協議会」の関係者らが登壇し、地域資源を活用したまちづくり策を議論した。市企画課によると、同サミットは19回目の開催。17日も市内の海辺や温泉地で「路地巡り」を実施する。

昨年議題となった自転車ヘルメット購入費補助制度をはじめ、これまでに高校生が着目した多数の提案が実現している。

市民と外国人 文化祭で交流

下田 「デジタルノマド」誘致事業

下田市民と外国人来訪者が交流する同市主催のイベント「世界文化祭」が16日、下田市内で開かれた。国や場所を選ばずITを活用してリモートで働く「デジタルノマド（遊牧民）」の誘致に注力する市のモデル事業の一環。

市内では11月、外国人約100人が下田での生活を楽しみながらリモートワークに取り組んでいる。会場の倉庫で外国人の滞在者や高校生らが出店した。下田高生活科学部は米と牛乳を使った独自の菓子を出品。幕末の下田で初代米国総領事のハリスが牛乳を欲したとの逸話とともに、開発経緯を紹介した。同部2年の清水莉子さんは「さまざまな国の人たちから意見をもらえるのは励みになる」と声を弾ませた。

開発した菓子を説明する下田高の生徒＝下田市

インドネシアの料理「ナシゴレン」やドイツのソーセージ料理も登場。茶道など日本文化の体験機会も設けられた。

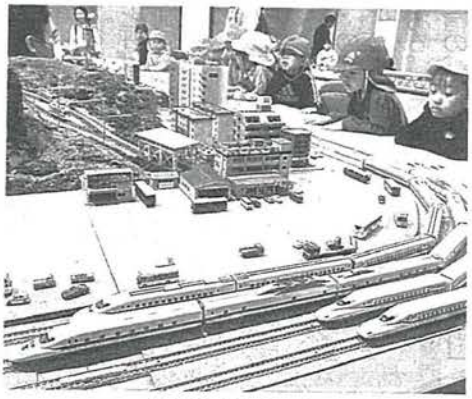
鉄道模型を実演

熱海の同好会

熱海鉄道同好会のイベント「2024秋の鉄道展」が16日、熱海市中央町のいきいきプラザで始まった。Nゲージ（150分の1スケール）の鉄道模型を中心に千両以上を持ち込み、熱海近郊の風景を表現したジオラマ上で実演走行を披露している。17日まで。

1周13㍍の複々線を設置し、会員が手作りした新幹線や特急電車、貨物列車を走らせている。熱海サンビーチのジオラマは現場で採取した砂で再現した。HOゲージ（80分の1スケール）の鉄道模型も並ぶ。

東海道新幹線開業60周年を記念し、歴代車両の模型や写真を展示した。JR東日本熱海駅の協力で、塗り絵教室やグッズ配布を実施している。17日の開催時間は午前10時～午後4時。



Nゲージの鉄道模型が展示された会場＝熱海市のいきいきプラザ

クラシックカー 全国から47台集結

伊豆、愛好家イベント

全国のクラシックカー愛好家が集うイベント「第9回クラブ・デッラ・バルケッタ」が16日、伊豆市内などで開かれた。

イタリア車を中心とした小排気量のクラシックカー47台が、全国から同市の中伊豆ファイトリーに集結。参

荷場

国会

JAふじ伊豆伊豆の国苺（いちご）委員会は15日、今期は来年5月までに約480万㌔の出荷を目指して向け、活躍を誓った。

斗沢秀春監督は「連覇を目指し、全力を尽くして走りたい」と意気込みを語った。クラウドファンディング型のふるさと納税で費用を募った新しいユニホームも披露された。

登録選手は次の通り。

織部瞬（長泉北小6）福井悠（同）中園咲真（長泉小6）井口華凛（長泉南小6）佐伯日虹（同）大沼慶汰（長泉中3）柳原維人（同2）田代妃愛乃（同3）平野智優（同1）鈴木なな（長泉北中1）伊藤寛晟（加藤学園高3）日向啓輔（同1）田村幸登（飛龍高1）石川真華（日大三島高1）白石和花（三島北高2）川村駿斗（千葉大1）小林翔大（陸上自衛隊滝ケ原駐屯地）小名陽日（静岡大4）江島洋之（三島信用金庫）中村幸生（フジヘン）

編集後記

４年前に松木さんが市長になったときに、「下田で全国路地サミットはどうですか」と、今井さんと、もう鬼籍に入ってしまわれたが司波さん、小浪さんと５人で飲みながら、松木さんに振ったことを覚えている。その時松木さんは、特に、やるとも、やらないとも、はっきりしない様子だったと思う。いつ頃からか、今井さんから、「松木君が路地サミットを２０２４年にやる気になっている」と伝えられていた。

それが、２０２３年になって「２０２４年１０月に路地サミットをやる！２３年の京都にも行く！」と松木さんが明確に宣言したので驚いた。では、応援に行かねばなるまいと、４月に市内のアパートの一室に集まって決起集会を開いた。劣勢が伝えられる中、見事再選を果たし、めでたく開催となったものである。

開催は決まったが、路地サミットは学会ではない。地域の人たちに全国の活動を知っていただき、まちづくりの参考にしていただく。あるいは、地域のまちづくり活動や路地の良さを地域の方達に知っていただくことが目的である。そのためには、地域で主体的に活動している人たちにサミットを担ってほしい。そういう方達がいるのだろうか？と言う心配が頭をもたげてきた。

７月に、松木さんの当選祝いとサミットの打ち合わせのため、下田を再度訪問した。市役所の鈴木慈美氏が市長に会う前に、実行委員長に会ってほしいということで市民文化会館で安藤氏と面会・懇談した。そして、全国路地サミットの説明を終えたあと、安藤氏から出てくる言葉が、すばらしく、我々が考えていることとほとんど同じ意識であると言うことがわかり、もう、これで大丈夫と確信した。

実際、実行委員長と副委員長の挨拶が若干？いや、かなり長かったことを除けば、まち歩きガイドも地域の人材で、懇親会も街なかで新しい活動をしている人材によるケータリングサービス。下田を研究題材としている大学の学生達も参加して、多様な意見交換と人脈形成ができたのではないかと考えている。

改めて、誘致してくださった松木市長、路地サミットを受け止めてくださった安藤実行委員長はじめとする地元の皆さん、ありがとうございました。

そして、何よりもサミットの企画運営や地元の方々のとりまとめ、当日の裏方、レンタカーバスや送迎車の運転などを担当してくださった、市役所の皆さん、特に、八面六臂の活躍をされた鈴木慈美さん、本当にありがとうございました。

２０２５年八王子でお目にかかりましょう。

２０２５年１月　全国路地のまち連絡協議会世話人会一同

全国路地のまち連絡協議会の世話人としてご活躍いただいた、司波寛氏（右から二人目）と小浪博英氏（左端）のお二人の功績に感謝し、このレポートを捧ぐ（2020 年 10 月 20 日下田市長室にて松木市長と）

全国路地サミット 2024in 伊豆下田
「元祖開港都市下田　～下田に眠る資産を活かして再びの開港
閉じているものを開こう！～」
全国路地のまち連絡協議会世話人会レポート

令和７年１月

発行：全国路地のまち連絡協議会
〒160-0022　東京都新宿区新宿５－５－３　株式会社アルメック内
Tel.03-3353-3203(代)／Fax.03-3353-2411